

2021 年 こくみん共済 coop<全労済>社会福祉活動等助成事業

# 介護福祉士養成課程における ICT 化推進

(副題：科学的情報介護 LIFE の理解と、  
科目間連携における汎用性の高い映像教材の作成)

## 報告書

公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会

令和 5 (2023) 年 4 月

介護福祉士養成課程における ICT 化推進（副題：科学的情報介護 LIFE の理解と、科目間連携における汎用性の高い映像教材の作成）

報告書 目次

1. はじめに .....	2
2. 委員会委員名簿 .....	3
3. 会議開催記録 .....	4
(1) 検討委員会	
(2) チーム会	
4. 撮影の記録 .....	6
(1) 撮影のスケジュール	
(2) 撮影の記録	
・ 第 1 回	
・ 第 2 回	
5. インタビューガイド .....	1 3
6. シナリオ集 .....	1 4
・ シナリオ集（令和 4 年 1 2 月 2 ～ 3 日）	
・ シナリオ集（令和 5 年 1 月 2 0 ～ 2 1 日）	
・ 追加シナリオ（令和 5 年 1 月 2 1 日）	
7. 成果物（ワークシート） .....	9 9
・ ワークシート No. 1～No. 15	
8. おわりに .....	1 2 3

## 1. はじめに

### (1) 事業名

「介護福祉士養成課程におけるICT化推進（副題：科学的情報介護LIFEの理解と、科目間連携における汎用性の高い映像教材の作成）」（こくみん共済coop<全労済>2021年度社会福祉活動等助成事業）

### (2) 事業概要

新型コロナウイルス感染症の影響により、介護福祉士養成課程において、介護施設や在宅介護での従来のような介護実習の実施が困難になっている。そこで、映像教材を作成し、コロナ禍における介護実習にも活用し、介護福祉士養成教育の質のさらなる向上をはかることとした。

### (3) 事業内容

検討委員会及び作業部会を設置して検討を行った。検討委員会の委員は、当協会において調査研究事業を担当する教育力向上委員会の委員より選出された。作業部会の委員は検討委員会の委員の推薦により選出された。

科学的情報介護LIFEの体験型演習教材を作成し、感染症蔓延や災害禍、遠隔地（外国人留学生の入国前の事前課題等）においても利用でき、介護実習に加え、介護過程・コミュニケーション技術・介護総合演習・生活支援技術など、多様な演習でも活用ができる利用者理解のための教材を作成することとした。

### (4) 事業の成果及び活用方法

介護実習、介護過程の展開等に活用できる映像教材を作成し、新型コロナウイルス感染症の影響下での学習にも活用できるようにする。作成した映像教材はオンラインでの視聴が可能な状態にし、広く会員校等において活用できるようにする。また、作成したワークシートを映像教材と併用することにより、学習効果の向上をはかることとした。

また、新型コロナウイルス感染症の影響下において、教員、学生、介護実習施設の職員、利用者等が安全に指導、学習、実習に携わるための一助とし、介護福祉士養成教育の質の確保をはかることとした。

## 2. 委員会委員名簿

検討委員会委員（50音順・敬称略）（○：委員長）

委員氏名	所 属
石岡 周平	町田福祉保育専門学校
志水 幸	北海道医療大学
白井 幸久	群馬医療福祉大学短期大学部
○野田 由佳里	聖隷クリストファー大学

作業部会委員（50音順・敬称略）

委員氏名	所 属
齊藤 美由紀	日本福祉教育専門学校
高橋 由紀	北海道医療大学
松田 愛美	神奈川県立保健福祉大学
松山 美紀	国際医療福祉大学

### 3. 会議開催記録

#### (1) 検討委員会（すべてオンライン開催（Zoom ミーティング））

回	日時・検討内容
第1回	日時：令和4年8月23日（火）・11:00～12:00 内容：1. 検討委員会委員（案）及び作業部会委員（案）について 2. 助成希望事業計画書について 3. 事業の進め方について
第2回	日時：令和4年9月26日（月）・17:00～18:00 内容：1. 調査研究事業の全体像について 2. 具体的な取り組み（案）について 3. スケジュール（案）について
第3回	日時：令和4年10月25日（火）・17:00～18:00 内容：1. プロセスシート（A・B・Cチーム）について 2. 動画撮影について 3. シナリオについて 4. スケジュールについて 5. 報告書について
第4回	日時：令和4年11月8日（火）・18:00～19:00 内容：1. 撮影時の感染予防ルール 2. シーン案（A・B・Cチーム）について 3. 撮影シナリオについて 4. 撮影プロットについて 5. スケジュールについて 6. 報告書について
第5回	日時：令和4年11月29日（火）・18:00～19:00 内容：1. シーン集（A・B・Cチーム）について 2. 撮影時の実施体制（参加者）について 3. 撮影時の感染予防ルールについて 4. スケジュールについて 5. 報告書（案）について
第6回	日時：令和4年12月16日（金）・14:00～15:00 内容：1. 撮影の予定について 2. 撮影時の実施体制（参加者）について 3. 撮影時の感染予防ルール 4. ワークシートについて

	5. スケジュールについて 6. 報告書（案）について
第7回	日時：令和5年1月13日（金）・11:30～12:30 内容：1. 撮影の予定について 2. 撮影シーンについて 3. 撮影時の実施体制（参加者）について 4. 撮影時の感染予防ルール 5. ワークシートについて 6. スケジュールについて 7. 報告書（案）について
第8回	日時：令和5年3月17日（金）・13:00～14:00 内容：1. ワークシートについて 2. 報告書（案）について 3. スケジュールについて

(2) チーム会（すべてオンライン開催（Zoom ミーティング））

チーム名	構成員
Aチーム	石岡周平、齊藤美由紀、松田愛美
Bチーム	志水幸、高橋由紀
Cチーム	白井幸久、松山美紀

回	日時
Aチーム(1)	令和4年10月14日（金）・14:00～15:00
Aチーム(2)	令和4年10月31日（月）・18:00～19:00
Aチーム(3)	令和4年11月7日（月）・18:00～19:00

回	日時
Bチーム(1)	令和4年10月19日（水）・17:00～18:00
Bチーム(2)	令和4年11月4日（金）・18:00～19:00
Bチーム(3)	令和4年11月9日（水）・15:00～16:00

回	日時
Cチーム(1)	令和4年10月12日（水）・16:00～17:00
Cチーム(2)	令和4年11月1日（火）・15:00～16:00
Cチーム(3)	令和4年11月9日（水）・16:00～17:00

#### 4. 撮影の記録

##### (1) 撮影のスケジュール

- ・第1回：令和4年12月1日（木）～3日（土）・3日間
- ・第2回：令和5年1月19日（木）～21日（土）・3日間

- ・第1回（令和4年12月1日（木）～3日（土）・3日間

場所：静岡県浜松市・アクトシティ浜松

	参加者
(1) 12月1日（木）	高橋由紀、野田由佳里、松田愛美、松山美紀 インタビューイ A、インタビューイ B
(2) 12月2日（金）	齊藤美由紀、高橋由紀、野田由佳里、松田愛美、松山美紀 モデル C、モデル D、モデル E、モデル F、モデル G、モデル H、 モデル I 他物品輸送担当 3 名
(3) 12月3日（土）	齊藤美由紀、高橋由紀、野田由佳里、松田愛美、松山美紀 モデル C、モデル D、モデル E、モデル F、モデル G、モデル H、 モデル I、モデル J

・撮影内容、監修者等

撮影内容等	監修者
(1) 12月1日(木)・18:00~22:00	—
看取りケアに関するインタビュー インタビュアー：高橋由紀、松田愛美、松山美紀 インタビューイ：インタビューイ A、インタビューイ B 場所：アクトシティ浜松研修交流センター501号室	高橋由紀
(2) 12月2日(金)・9:00~17:00	
配膳場面 学生のコミュニケーション場面 連携：サービス担当者会議の開始場面	高橋由紀
食事：「お金払っていない」 食事：食べたことを忘れる	松田愛美
職業(行動分析)：警備員 職業(行動分析)：寿司職人	齊藤美由紀
脳梗塞後遺症の片麻痺のある男性の着替えの介助	松山美紀
場所：撮影・アクトシティ浜松研修交流センター62号室 控え室・アクトシティ浜松研修交流センター62号室	—

(3) 12月3日(土)・9:00~17:00	—
コミュニケーション：徘徊のある利用者 コミュニケーション：感情失禁のある利用者 拒否(1)：トイレ 拒否(2)：着がえ 拒否(3)：入浴 拒否(4)：外出 スーパービジョン：拒否(1)~(4)の各場面について	齊藤美由紀
異食のある利用者 盗食のある利用者	松田愛美
コミュニケーション：繰り返し昔の話をする利用者	齊藤美由紀
コミュニケーション：「若いといいね」と言う利用者	
入浴：入浴後どんどん重ね着をしている利用者 徘徊と帰宅願望：落ち着かない環境(周りが騒がしい)	石岡周平
職業(行動分析)：主婦 職業(行動分析)：女性看護師 職業(行動分析)：大学教授	齊藤美由紀
場所：撮影・アクトシティ浜松コンgresセンター43号室 控え室・アクトシティ浜松コンgresセンター45号室	

・第2回(令和5年1月19日(木)~21日(土)・3日間  
(静岡県浜松市・えんてつ浜松駅前貸会議室)

	参加者
(1)1月19日(木)	翌日以降の打合せのみ：高橋由紀、野田由佳里、松田愛美
(2)1月20日(金)	志水幸、高橋由紀、野田由佳里、松田愛美 モデルE、モデルJ 齊藤美由紀(zoomにてリモートで参加)
(3)1月21日(土)	志水幸、高橋由紀、野田由佳里、松田愛美 モデルC、モデルD、モデルF、モデルG、モデルI 齊藤美由紀(zoomにてリモートで参加)

・撮影内容、監修者等

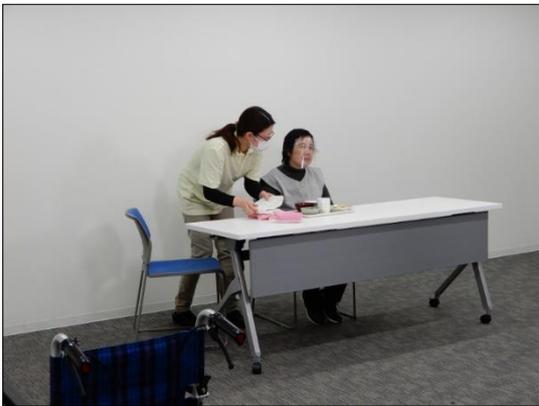
撮影内容等	監修者
(1) 1月19日(木)・19:00~21:00	——
打合せ(高橋由紀、野田由佳里、松田愛美)	——
場所: えんてつ浜松駅前貸会議室 07	
(2) 1月20日(金)・9:00~21:00	——
左片麻痺のある利用者: 相談員との面接	松田愛美
左片麻痺のある利用者: 上衣の着脱	
視覚障害のある利用者: 利用者の思いが分かる場面	
視覚障害のある利用者: 食事介護の場面	
居眠りをして食事をしない利用者: 原因	齊藤美由紀
介護の倫理・尊厳ある介護の実践: スピーチロック	松田愛美
排泄の介護における感染症対策	
待つ介護: 立位→歩行介助	高橋由紀
頻繁にトイレに行く: 原因	齊藤美由紀
場所: 撮影・えんてつ浜松駅前貸会議室 06 控え室・えんてつ浜松駅前貸会議室 07	——
(3) 1月21日(土)・9:00~17:00	——
不適切な介護(1): 転倒	高橋由紀
不適切な介護(2): 立ち上がり	
不適切な介護(3): 再度の転倒	
不適切な介護(4): 車いす移乗	
スーパービジョン(あるいはカンファレンス)	野田由佳里
レビー小体型認知症のある人の幻覚: 熊	齊藤美由紀
レビー小体型認知症のある人の幻覚: 泥棒	
脳血管性認知症のある人(1): 暴言・暴力の評価的理解	
脳血管性認知症のある人(2): 暴言・暴力の分析的理解	
脳血管性認知症のある人(3): 暴言・暴力の共感的理解	
脳血管性認知症のある人(4): (1)~(3)のステップ後の変化	
アルツハイマー型認知症のある人の娘を対象とした相談援助	
実習生が初めて利用者の居室に入る(1): 実習生だけの会話	松山美紀
実習生が初めて利用者の居室に入る(2): 実習指導者から実習生への指導	松田愛美
実習生が初めて利用者の居室に入る(3): 初めての入室とコミュニケーション	補佐

<p>脳梗塞後遺症の右片麻痺と失語症のある人の睡眠  脳梗塞後遺症の左片麻痺と左空間無視と狭心症のある人の睡眠  アルツハイマー型認知症で不穏のある人の睡眠</p>	野田由佳里
<p>脳梗塞後遺症の右片麻痺と失語症のある人の入浴  脳梗塞後遺症の左片麻痺と左空間無視と狭心症のある人の入浴  アルツハイマー型認知症で不穏のある人の入浴</p>	
<p>アルツハイマー型認知症で不穏のある人の排泄</p>	
<p>脳梗塞後遺症の右片麻痺と失語症のある人のスーパービジョンにつなげる部分  脳梗塞後遺症の左片麻痺と左空間無視と狭心症のある人のスーパービジョンにつなげる部分  アルツハイマー型認知症で不穏のある人のスーパービジョンにつなげる部分</p>	
<p>場所：撮影・えんてつ浜松駅前貸会議室 03  控え室・えんてつ浜松駅前貸会議室 05</p>	—

(撮影風景)



(撮影風景)



## 5. インタビューガイド（令和4年12月1日）

### インタビューガイド

インタビューでお聞きしたい内容は以下になります。

- ・ 家族や身近な人の看取り経験の有無。
- ・ 職場での看取り経験の有無。
- ・ 看取りケアで大切にしていることは何か。
- ・ 死を迎える利用者へ看取りケアを行い、どのような感情が生じたか。その生じた感情にどのように向き合ったのか。
- ・ 介護職員も含めた多職種連携をどのように行っていたか（助かったことや助けてほしいことなど）。
- ・ 看取りを終えた後は、これまでとは違う感情が生じたか。その生じた感情にどのように向き合ったのか。
- ・ グリーフケアについてのマニュアルがあるか。  
(ある場合)  
その内容はどのようなものなのか。参考にしたものは何か。  
家族や職員にはどのように活かし、自分自身にはどのように活かされたのか
- ・ 教育課程で看取りや死生観についてなど、どのようなことを学んでおくと良いか。

#### 参考

- 日當沙代子、菊池和子（2018）「介護老人保健施設における看護師・介護福祉士の看取り体験」『岩手看護学会誌』12（2）、15-28
- 加藤友野（2021）「感情から見える介護職のグリーフケア - 感情労働の視点からの一考察-」『関西福祉科学大学紀要』25、65-75

6. シナリオ集

・シナリオ集（令和4年12月2～3日）

	アルツハイマー型（Aさん） モデルC	その他（脳血管、レビー、 前頭側頭……）	必要物品、撮影時のレイ アウト	撮影、録音のポイント
食事（1日目）	<p>白い茶碗で認識できない</p> <p>○おかずは食べるが、ご飯だけ残す</p> <p>悪い対応：白いご飯が好きではないと判断され、本当は好きなのに別の物に替えられてしまう</p> <p>良い対応：どうして食べないか尋ねる？・家族に尋ねる・カンファレンスを行い、認識できていないのではないかと推測する・色のついた茶碗にご飯をよそう</p> <p>利用者視点：（本当はあるのに）何も入っていない茶碗がみえる</p>	<p>レビー：「ご飯の上に虫がいる」</p> <p>○ふりかけご飯のふりかけが虫に見える（錯視）</p>	<p>《必要物品》</p> <p>①食事</p> <p><input type="checkbox"/>茶碗（白）</p> <p><input type="checkbox"/>茶碗（内面色付き）</p> <p><input type="checkbox"/>白飯</p> <p><input type="checkbox"/>皿</p> <p><input type="checkbox"/>おかず</p> <p><input type="checkbox"/>箸</p> <p><input type="checkbox"/>汁椀</p> <p><input type="checkbox"/>味噌汁</p> <p><input type="checkbox"/>ふりかけ（レビー）</p> <p><input type="checkbox"/>虫のおもちゃ？（レビー）</p> <p><input type="checkbox"/>お盆</p> <p>②環境（ダイニング）</p> <p><input type="checkbox"/>机</p> <p><input type="checkbox"/>椅子</p> <p><input type="checkbox"/>テーブルクロス</p> <p>③利用者服装</p> <p><input type="checkbox"/>上衣</p> <p><input type="checkbox"/>ズボン</p> <p><input type="checkbox"/>靴</p> <p>④介護者服装</p> <p><input type="checkbox"/>ポロシャツ</p> <p><input type="checkbox"/>ズボン</p> <p><input type="checkbox"/>靴（スニーカー）</p> <p>⑤登場人物</p> <p><input type="checkbox"/>利用者</p> <p><input type="checkbox"/>職員（2人、良い対応をする職員と悪い対応をする職員）</p>	<p>・ご飯だけが残っている食事のカットを入れる</p> <p>・ご飯が入っていない茶碗を映し、利用者から見えている世界を分かりやすく映す</p> <p>・色のついた茶碗にご飯を入れたカットを入れる</p> <p>・職員2人でAさんの食事について検討するシーンを入れる</p>

	アルツハイマー型 (Aさん) モデルC	その他 (脳血管、レビー、 前頭側頭……)	必要物品、撮影時のレイ アウト	撮影、録音のポイント
食事 (1日目)	<p>異食(花、茶碗、石けん、木魚)</p> <p>○落ち着きのない様子で施設内を歩き回り、リビングに飾ってある花を食べてしまう</p> <p>悪い対応：花を置くことをやめて殺風景なリビングになる</p> <p>良い対応：食べても害のない花を飾る？・空腹を感じて食べてしまうのかもしれないと推測する・お茶の時間を設ける</p> <p>利用者視点：空腹を感じ、食べ物がないか探す・リビングの花が野菜に見える</p>		<p>≪必要物品≫</p> <p>①異食</p> <p><input type="checkbox"/>花 (食べられるもの)</p> <p><input type="checkbox"/>野菜 (花に似ているもの)</p> <p><input type="checkbox"/>花瓶</p> <p><input type="checkbox"/>湯呑</p> <p><input type="checkbox"/>お茶</p> <p><input type="checkbox"/>お菓子</p> <p><input type="checkbox"/>お盆</p> <p>②環境 (リビング)</p> <p><input type="checkbox"/>机</p> <p><input type="checkbox"/>椅子</p> <p><input type="checkbox"/>テーブルクロス</p> <p><input type="checkbox"/>時計</p> <p>③利用者服装</p> <p><input type="checkbox"/>上衣</p> <p><input type="checkbox"/>ズボン</p> <p><input type="checkbox"/>靴</p> <p>④介護者服装</p> <p><input type="checkbox"/>ポロシャツ</p> <p><input type="checkbox"/>ズボン</p> <p><input type="checkbox"/>靴 (スニーカー)</p> <p>⑤登場人物</p> <p><input type="checkbox"/>利用者</p> <p><input type="checkbox"/>職員 (2人、良い対応をする職員と悪い対応をする職員)</p>	<p>・何かを探しているように歩く</p>

	アルツハイマー型 (Aさん) モデルC	その他 (脳血管、レビー、 前頭側頭……)	必要物品、撮影時のレイ アウト	撮影、録音のポイント
食事 (1日目)	<p>盗食</p> <p>○隣の利用者の食事を食べてしま う</p> <p>悪い対応:「自分の分は食べたのに、 人の分まで食べるなんて」と怒る</p> <p>良い対応:自分の食事がどれかわか らないのかもしれないと推測し、そ の方の食事を別のお盆に載せるな どしてその人の分が分かりやすい ようにする</p> <p>利用者視点:食事がよく見えず、隣 の人の分も自分の分と思い食べて しまう</p>		<p>《必要物品》</p> <p>①食事</p> <p><input type="checkbox"/>茶碗×2</p> <p><input type="checkbox"/>白飯×2</p> <p><input type="checkbox"/>皿×2</p> <p><input type="checkbox"/>おかず×2</p> <p><input type="checkbox"/>箸×2</p> <p><input type="checkbox"/>汁椀×2</p> <p><input type="checkbox"/>味噌汁×2</p> <p><input type="checkbox"/>ランチョンマット (淡い色) × 2</p> <p><input type="checkbox"/>お盆 (はっきりした色)</p> <p>②環境 (ダイニング)</p> <p><input type="checkbox"/>机</p> <p><input type="checkbox"/>椅子</p> <p><input type="checkbox"/>テーブルクロス</p> <p>③利用者服装</p> <p><input type="checkbox"/>上衣</p> <p><input type="checkbox"/>ズボン</p> <p><input type="checkbox"/>靴</p> <p>④介護者服装</p> <p><input type="checkbox"/>ポロシャツ</p> <p><input type="checkbox"/>ズボン</p> <p><input type="checkbox"/>靴 (スニーカー)</p> <p>⑤登場人物</p> <p><input type="checkbox"/>利用者2人</p> <p><input type="checkbox"/>職員 (2人、良い対応をする職 員と悪い対応をする職員)</p>	<p>・盗るという意識はなく、 自分のご飯だと思って隣 の人の食事を食べてしま う</p> <p>・淡い色のランチョンマ ットなどで、自分と隣の 人の境目が理解できない</p>

	アルツハイマー型 (Aさん) モデルC	その他 (脳血管、レビー、 前頭側頭……)	必要物品、撮影時のレイ アウト	撮影、録音のポイント
食事 (1日目)	<p>食べるのを忘れる</p> <p>○朝ごはんを食べていないから食べさせて欲しいと話す</p> <p>悪い対応：食べたはずなので、食事は出せないと断る。</p> <p>良い対応：食べていないから食べさせて欲しいと話す思いを受け止める。お腹が空いているのであれば、お昼ご飯を早めに用意する、お茶を出すなどする。</p> <p>利用者視点：時間を見て朝ごはんを食べていない (本当は食べている) ことを思い出す。</p>		<p>《必要物品》</p> <p>①環境 (リビングもしくは廊下など)</p> <p>②利用者服装</p> <p><input type="checkbox"/>上衣</p> <p><input type="checkbox"/>ズボン</p> <p><input type="checkbox"/>靴</p> <p>③介護者服装</p> <p><input type="checkbox"/>ポロシャツ</p> <p><input type="checkbox"/>ズボン</p> <p><input type="checkbox"/>靴 (スニーカー)</p> <p>④登場人物</p> <p><input type="checkbox"/>利用者</p> <p><input type="checkbox"/>職員 (2人、良い対応をする職員と悪い対応をする職員)</p>	<p>・お腹が空いているのではないかと分かるカット (お腹をおさえて困った顔をする) を入れる</p>

	アルツハイマー型 (Aさん) モデルC	その他 (脳血管、レビー、 前頭側頭……)	必要物品、撮影時のレイ アウト	撮影、録音のポイント
食事 (1日目)	<p>お金払ってない</p> <p>○夕食を提供するが、一向に手をつけようとしなない。どうしたのか尋ねると、お金を払っていないので、食べずに帰ると話す。</p> <p>悪い対応：「そんなこと言っていないで、もうご飯が来るから早く座ってください」</p> <p>良い対応：思いを受け止める。「お金のことが心配になってしまったのですね」「お金は先にいただいているので大丈夫です。安心して召し上がってください」</p> <p>利用者視点：夕方になり外が暗くなる。他の人が夕食を食べている。自分はお金を払っていないし、今持っていないから帰らなくてほしい、ドアに向かう。</p>		<p>《必要物品》</p> <p>①食事  <input type="checkbox"/>茶碗(白)  <input type="checkbox"/>白飯  <input type="checkbox"/>皿  <input type="checkbox"/>おかず  <input type="checkbox"/>箸  <input type="checkbox"/>汁椀  <input type="checkbox"/>味噌汁  <input type="checkbox"/>お盆</p> <p>②環境 (ダイニング)  <input type="checkbox"/>机  <input type="checkbox"/>椅子  <input type="checkbox"/>テーブルクロス  <input type="checkbox"/>時計</p> <p>③利用者服装  <input type="checkbox"/>上衣  <input type="checkbox"/>ズボン  <input type="checkbox"/>靴</p> <p>④介護者服装  <input type="checkbox"/>ポロシャツ  <input type="checkbox"/>ズボン  <input type="checkbox"/>靴 (スニーカー)</p> <p>⑤登場人物  <input type="checkbox"/>利用者  <input type="checkbox"/>職員 (2人、良い対応をする職員と悪い対応をする職員)</p>	<p>・食事を前にじっとしているカットを入れる</p> <p>・時計のカットを入れて時間を表現する</p>

	アルツハイマー型 (Aさん) モデルC	その他 (脳血管、レビー、 前頭側頭……)	必要物品、撮影時のレイ アウト	撮影、録音のポイント
コミュニケーション (1日目)	<p>対応の方法 (受容、傾聴) →徘徊している人「ここに座ってま しょう」× 施設の廊下で出口を探している人 がいる。 (悪い対応) 職員は施設の外へ出ては困るので 「ここに座ってましよう」と食堂 の椅子に誘導する。 [受容・傾聴・共感していない] (良い対応) 職員は、「途中まで一緒に行きま しょうか」と、一緒に歩き出す。雑 談をする中で、帰る前にお手洗いは 済んでいるか聞く。排泄を済ませ、 この後「おやつ」が出ること話して 座ってもらう。</p>	<p>脳血管：いきなり泣き出 す (感情失禁)  例) 家族の話をしたら泣 き出す →笑う場面で泣く (事例紹介) ※こんな人 がいる  脳血管性認知症の利用 者が車いすに乗り、食堂 のテーブルで他の利用者 と職員を交えて話してい る。皆で、家族の話にな る。 「孫が先月結婚した」と いう利用者に皆で「おめ でとう」「良かったね」と 笑顔になるが、当該利用 者は泣いてしまう。</p>	<p>[徘徊] 椅子 (ソファー) 廊下など広い場所 (徘徊)  [感情失禁] 車いす、テーブル、椅子</p>	<p>撮影、録音のポイント  ←2人のやり取りが 見えるように  ←他の利用者も含めた 全景が映るように</p>

	アルツハイマー型 (Aさん) モデルC	その他 (脳血管、レビー、前 頭側頭……)	必要物品、撮影時のレ イアウト	撮影、録音のポイント
コミュニケーション (1日目)	<p>会話になっていない認知症の方同士のコミュニケーション</p> <p>例) 自慢をする、〇〇に会ったことがある、お金をたくさん持っている (事例紹介) ※こんな人がある</p> <p>ソファに座っている認知症のある利用者同士が話をしている。一方の利用者は、</p> <p>「うちの父親は中曽根さんと同級生でね」</p> <p>と話し、</p> <p>「そうそう、私は昔、仕事で200万、300万円カバンに入れて持っていたのよ」</p> <p>と話が噛みあわない。</p>	<p>ピック病：好きなタイプの人がいるとキスする (動画では難しい?)</p> <p>→人によって態度が違う (ご機嫌の場面)</p> <p>食堂 (ソファ) などに座っている利用者。若い女性職員が「食堂に行きましょう」と声をかけると、嬉しそうに「ありがとうございます」と言って動き出す。 (不機嫌の場面)</p> <p>食堂 (ソファ) などに座っている利用者。ベテランの男性職員が「食堂に行きましょう」と声をかけると、無視する。何度も声をかけると「あんたが行きなさい」と不機嫌に答える。</p>	<p>[会話になってない]</p> <p>ソファ、椅子、 (テーブル?)</p> <p>[ピック病]</p> <p>ソファ (椅子)、 (テーブル、椅子)</p>	<p>←2人のやり取りが見えるように</p> <p>←「ご機嫌」「不機嫌」をハッキリとする (表情も演技)</p>

	アルツハイマー型 (Aさん) モデルC	その他 (脳血管、レビー、前 頭側頭……)	必要物品、撮影時のレ イアウト	撮影、録音のポイント
コミュニケーション (1日目)	<p>寝ぼけたときの会話 (夜間せん妄) →「誰か (おじさん) が来た」(殺される) (事例紹介) (対応方法) 夜勤で職員が巡視で居室に行く。 当該利用者は 「そこにおじさんが来た」「殺しに来た」 と繰り返す。だんだん興奮してきている。職員は手を擦りながら 「私と一緒にいますから大丈夫ですよ」 と話す。 「眠れないのなら、車いすに乗ってしばらく私と一緒にいますか？」 と、車いすに乗せ、ケアステーションに向かう。</p>	<p>レビー小体型認知症：幻視 (子ども、動物等部屋にいる) →否定しない話し方 車いすに乗った利用者 (レビー小体型認知症) を就寝介助で居室に誘導すると、室内に「小さい子があそこにいる」と部屋の角 (天井部分) を指さす。 (悪い対応) 「大丈夫です、そんな子はいないですから。安心してください」 [否定する] (良い対応) 「どんな子ですか？ ○さんのお子さんですか？」 と言いながら着替えを介助する。「○さんは子ども好きですものね」 [受容・傾聴・共感した会話]</p>	<p>[夜間せん妄] ベッド、(車いす?) ※居室っぽい環境</p> <p>[幻視] ベッド、(車いす?) ※居室っぽい環境</p>	<p>←居室に入るところからスタート。 だんだん興奮気味になっていく演技。</p> <p>←「利用者には見えていない」 「一般には見えない」 居室の部屋の角を2パターン見せてからスタート。</p>

	アルツハイマー型 (Aさん) モデルC	その他 (脳血管、レビー、 前頭側頭……)	必要物品、撮影時のレイ アウト	撮影、録音のポイント
コミュニケーション (1日目)	<p>同じ話を繰り返す →「ご飯食べてない」 車いすに乗った利用者がケアステーションへ。</p> <p>「私だけ昼ごはん食べていない」と興奮している。</p> <p>(悪い対応)</p> <p>「〇さんは先程、ご飯食べましたよ」と答える。</p> <p>利用者は繰り返し「食べていない」と言う。職員は「食べていたから、夕飯までお待ちください」と取り合わない。</p> <p>(良い対応)</p> <p>職員は「そうでしたか、すみません。ご飯が来るまで、お茶を飲んでお待ちください」と食堂へ。</p> <p>しばらくしたら、「昼食は片付けてしまって、いま大急ぎで作っているそうなので、お菓子を少しいかがですか?」と渡す。</p>		<p>[同じ話くり返す] 車いす、カップ (お茶) お菓子</p>	<p>←2人のやり取りが見えるように</p>

	アルツハイマー型 (Aさん) モデルC	その他 (脳血管、レビー、 前頭側頭……)	必要物品、撮影時のレイ アウト	撮影、録音のポイント
コミュニケーション (1日目)	<p>「昔の話くり返す」 ソファに座っている利用者。「私は農家の生まれだから、小さい頃から手伝ってたのよ。米、サツマイモ、ナス、きゅうり、トマト、ほうれん草……なんでも作った。朝から晩まで、ずーっと田んぼと畑で大変」と話すのを実習生は聞いている。</p> <p>話が一段落すると、「私は農家の生まれだから、小さい頃から……」と同じ話を繰り返す。</p> <p>(悪い対応)</p> <p>実習生は、1度目は「そうなんですか、大変でしたね」と聞くが、2度目は「その話は先程もしましたね」と言う。</p> <p>(良い対応)</p> <p>実習生は、「そうなんですか、大変でしたね」と毎回同じように聞き、同じように話す。</p>	←利用者は初めて話したことと思っている。	<p>[昔の話] ソファ (椅子でも可)</p>	<p>←2人のやり取りが見えるように (悪い対応)では、最後に利用者は不機嫌に。</p>

	アルツハイマー型 (Aさん) モデルC	その他 (脳血管、レビー、 前頭側頭……)	必要物品、撮影時のレイ アウト	撮影、録音のポイント
コミュニケーション (1日目)	<p>「若いといいね」 →ニコニコして相手の手をずっと 触っている (事例紹介) 車いすに座っている女性の利用 者。新卒の若い実習生が話しかける と、 「あなた若くていいわね」 と手を握り、擦りながらニコニコ している。</p>		<p>[若いといいね] 車いす (椅子、ソファー)</p>	<p>←ご機嫌で、ずっと笑顔 でいる (利用者)。</p>

	アルツハイマー型 (Aさん) モデルC	その他 (脳血管、レビー、 前頭側頭……)	必要物品、撮影時のレイ アウト	撮影、録音のポイント
徘徊 (1日目)	<p>徘徊+帰宅願望</p> <p>・<u>落ち着かない環境</u> (周りが騒がしい)</p> <p>食堂に座っている利用者。席の周りでは、認知症の利用者が「先生、先生、助けてください」と独語を大きな声で繰り返す。何人かの女性利用者が大きな声で楽しそうに会話している。</p> <p>職員は排泄の時間なので、トイレ誘導やおむつ交換に向かうためカートを押して、せわしなく動いている。</p> <p>(利用者の目線)</p> <p>他の利用者の声にイライラしている。職員達がせわしなく動いているのを見て、気持ちに落ち着きがなくなってくる。</p>	←職員がせわしなく動く	<p>[帰宅願望]</p> <p>テーブル、椅子 (車いす)、おむつ交換カート (なくても可)</p> <p>※食堂っぽい環境</p> <p>周りのせわしなく動く雰囲気</p>	<p>←①認知症の利用者</p> <p>②何人かの女性利用者</p> <p>③せわしない職員</p> <p>④それを見ている認知症利用者</p> <p>①②③④を映した後で、認知症利用者がだんだんイライラしてくる様子を撮っていく。</p>

	アルツハイマー型 (Aさん) モデルC	その他 (脳血管、レビー、 前頭側頭……)	必要物品、撮影時のレイ アウト	撮影、録音のポイント
徘徊 (1日目)	<p>・<u>夕方 (時計をうつす)</u> (事例紹介)</p> <p>午前中 (朝食後など) ソファに座って他の利用者と会話している。</p> <p>昼食後、ソファに座っているが通りかかる職員に「今日は何時に帰れるの?」と頻繁に聞く。</p> <p>その後 (14時過ぎ?) 徘徊がはじまり、出口を探す。職員や他の利用者に「私は帰ります」と言い、何か探すように歩く。</p> <p>[対応方法: コミュニケーション等]</p>	<p>←午前と午後の違い</p> <p>←午前: 穏やか</p> <p>午後: どんどん興奮状態 (イライラした感じに)</p>	<p>[夕方]</p> <p>壁掛け時計など</p> <p>ソファ (椅子など)</p> <p>廊下など広い場所 (徘徊)</p>	<p>午前→午後→夕方にかけて、不穏になって行く様子 (演技)。</p> <p>シーン冒頭に時計を写す (もしくは、字幕で時間を入れる)。</p>

	アルツハイマー型 (Aさん) モデルC	その他 (脳血管、レビー、前頭側頭……)	必要物品、撮影時のレイアウト	撮影、録音のポイント
徘徊 (1日目)	<p>・ <u>他の人が帰る</u> 「<u>帰らせていただきます</u>」 (事例紹介) 職員の退勤時の会話、「お疲れさまでした」や、帰ろうとしている姿に反応する。利用者が「私も連れて行ってちょうだい」。 → (理由)「子供が待っている」 (事例紹介) 帰宅願望で歩き回っている利用者。大概是夫や子ども「食事の支度」をしないといけないことが多い。 [帰宅願望：夕方 (時計うつす) の設定に入れる] 「主人が待っている」 「食事の支度をしないといけない」 →「バス停はどこ」 帰宅願望につながる [対応] (事例紹介) 手作りで「バス停」を製作する。簡単にバス停とわかる建具や、横にベンチを設置する。帰宅願望で歩き回る人がいた場合、ベンチに誘導して「バス待ち中」に会話する。</p>	<p>← コミュニケーション：徘徊している人「ここに座ってましよう」の設定に加えるのも可</p>	<p>[他の人帰る] 椅子 (ソファなど)</p> <p>[帰宅願望] 壁掛け時計など 廊下など広い場所 (徘徊)</p>	<p>← 2人のやり取りが見えるように。</p> <p>← シーン冒頭に時計写す (もしくは、字幕で時間を入れる)。</p>



	アルツハイマー型 (Aさん) モデルC	その他 (脳血管、レビー、 前頭側頭……)	必要物品、撮影時のレイ アウト	撮影、録音のポイント
浴室 (2日目)	<p>認知機能の低下による行動への理解</p> <p>①服を脱がせる：おいはぎ</p> <p>居室から脱衣場まで移動してくる。脱衣場に入り、誘導されながら椅子に座る。すると突然、介護職員が前と後ろに現れ、衣服を前後から脱がされる。入浴するための脱衣ということを理解できず、おいはぎと思い、介護職員の腕を噛もうとする。</p>	<p>良い一例として</p> <p>浴室の雰囲気を見せる、お風呂の湯気を感じてもらおう、お風呂の絵を見せるなど五感を刺激し、入浴することを認識してもらおう。</p>	<p>&lt;登場人物&gt;</p> <p>利用者 1人 介護職員 2人</p> <p>&lt;必要物品&gt;</p> <p>椅子 2脚 無理矢理脱がそうとする カーディガン</p> <p>&lt;撮影場所&gt;</p> <p>浴室</p>	<p>介護職員が利用者の前後から衣服を脱がそうとするシーン、利用者の不安そうな表情、利用者が介護職員の腕を噛もうとするシーン</p>

	アルツハイマー型 (Aさん) モデルC	その他 (脳血管、レビー、 前頭側頭……)	必要物品、撮影時のレイ アウト	撮影、録音のポイント
浴室 (2日目)	<p>②お風呂のお湯が井戸に見える</p> <p>脱衣場から浴室に移動し、「〇〇さん、浴槽に入りましょう」と浴槽の目の前に誘導する。きょろきょろしながら浴槽の前に立った瞬間、利用者が「池に落とさないで」と怯える。介護職員は「〇〇さん、大丈夫よ、お風呂に入ると気持ちいいわよ～、さあ入りましょう」と声掛けするが、必死で浴室から逃げようとする。</p>	<p>良い一例として</p> <p>浴槽のお湯に手を入れてもらい、温かさを感じてもらい、お風呂であることを認識してもらおう。</p>	<p>&lt;登場人物&gt;</p> <p>利用者1人 介護職員1人</p> <p>&lt;必要物品&gt;</p> <p>裸をイメージできるような上下の衣服(黒の長袖Tシャツとタイツなど)</p> <p>&lt;撮影場所&gt;</p> <p>浴室</p>	<p>きょろきょろしている表情、浴槽の前で怯えている表情、介護職員が笑顔で声掛けしているシーン (利用者と介護職員の認識の違い)、利用者が浴室から逃げようとするシーンを撮影。</p>

	アルツハイマー型 (Aさん) モデルC	その他 (脳血管、レビー、 前頭側頭……)	必要物品、撮影時のレイ アウト	撮影、録音のポイント
浴室 (2日目)	③失認: 浴槽を跨げない 体を洗い終わり、介護職員の誘導によりきよろきよろしながら浴槽に入ろうとするシーン。しかし、認知機能の低下により、浴槽の高さを認知できず、自分が実際に跨ぐことができる高さよりも自分の能力を高く見積もってしまい、足が上がらず跨ぐことができないでいる。	良い一例として 介護職員が自身の足でどのくらい足を上げればよいか先に見せる。 途中でもう少し高く足を上げてくださいと声掛けを行うなど具体的な説明をする。	<登場人物> 利用者 1人 介護職員 1人  <必要物品> 裸をイメージできるような上下の衣服(黒の長袖Tシャツとタイツなど)  <撮影場所> 浴室	足が浴槽の高さまで上がらないシーン、利用者の困惑した表情を撮影。

	アルツハイマー型 (Aさん) モデルC	その他 (脳血管、レビー、 前頭側頭……)	必要物品、撮影時のレイ アウト	撮影、録音のポイント
浴室 (2日目)	<p><u>④どンドン重ね着</u></p> <p>入浴が終わり、身体を拭いた後、椅子に座りながら自分で衣服を着るシーン。ADLは自立しているので、介護職員が着る順番に衣服をセットしているが、その順番通りに着ることができず、ボタンシャツの上に丸首の下着を着る、ズボンの上にリハビリパンツをはく (リハビリパンツの股に腕を通す) などの重ね着をしている。</p>	<p>良い一例として</p> <p>①衣服を着る順番通りに並べている。</p> <p>②一枚一枚着る順番に手渡しをしている。</p> <p>③着る方法を声掛けとジェスチャーで示している。</p>	<p>&lt;登場人物&gt;</p> <p>利用者1人 介護職員1人</p> <p>&lt;必要物品&gt;</p> <p>椅子2脚 裸をイメージできるような上下の衣服 (黒の長袖Tシャツとタイツなど)。 バスタオル 着替えの衣服 (丸首の下着、ボタンシャツ、ズボン、リハビリパンツなど)</p> <p>&lt;撮影場所&gt;</p> <p>浴室</p>	<p>無造作に衣服が並べられているシーン、衣服を着る順番を考えているシーン、困惑している表情、順番通りに着替えられず、ズボンの上にリハビリパンツをはいているシーン、ボタンシャツの上に下着を着るシーンなどを撮影。</p>

	アルツハイマー型 (Aさん) モデルC	その他 (脳血管、レビー、 前頭側頭……)	必要物品、撮影時のレイ アウト	撮影、録音のポイント
トイレ(2日目)	<p>洋式便器をトイレと認識できない</p> <p>○排泄の一連の動作</p> <p>・トイレに行きたいと思い、トイレを探すがトイレの場所が分からない (見当識障害)</p> <p>良い対応：トイレの表示を大きくし、分かりやすくする</p> <p>・トイレに入るが便器が認識できない、トイレの蓋があげられない、トイレットペーパーを自分で用意できない (失認)</p> <p>良い対応：トイレの中で、便器に触れてもらい便器を認識してもらい、座る動作を一緒に行う、トイレットペーパーはあらかじめ切ったものを用意しておく</p>		<p>《必要物品》</p> <p>①排泄用品</p> <p><input type="checkbox"/> トイレットペーパー</p> <p><input type="checkbox"/> トイレのマーク (小)</p> <p><input type="checkbox"/> トイレのマーク (大)</p> <p>②環境 (トイレ)</p> <p><input type="checkbox"/> トイレ</p> <p><input type="checkbox"/> 廊下</p> <p>③利用者服装</p> <p><input type="checkbox"/> 上衣</p> <p><input type="checkbox"/> ズボン</p> <p><input type="checkbox"/> 靴</p> <p>④介護者服装</p> <p><input type="checkbox"/> ポロシャツ</p> <p><input type="checkbox"/> ズボン</p> <p><input type="checkbox"/> 靴 (スニーカー)</p> <p>⑤登場人物</p> <p><input type="checkbox"/> 利用者</p> <p><input type="checkbox"/> 職員</p>	<p>・廊下等でトイレを探しているカット (トイレのマーク (小) に気づかず、素通りする。</p>

	アルツハイマー型 (Aさん) モデルC	その他 (脳血管、レビー、 前頭側頭……)	必要物品、撮影時のレイ アウト	撮影、録音のポイント
拒否	<p>介護拒否には利用者なりの理由があり、単に介護拒否と捉えるのではなく、その理由や背景をアセスメントする。</p> <p>①トイレ拒否</p> <p>日中、利用者の元へ行き、介護職員がトイレ誘導を行う。「〇〇さん、トイレに行きませんか？」と声をかけるが、「大丈夫です」と返答する。介護職員は「そんなこと言わないで一緒に行きましょうよ」と説得を続ける。しかし、「いいです、いいです。大丈夫ですから」と拒否を続ける。</p>	<p>良い一例として</p> <p>トイレへ行くための声掛けであることを理解してもらうために、ジェスチャーをしながら、トイレへ誘導する。</p>	<p>&lt;登場人物&gt;</p> <p>利用者 1人 介護職員 1人</p> <p>&lt;必要物品&gt;</p> <p>テーブル、椅子</p> <p>&lt;撮影場所&gt;</p> <p>談話室 (食堂、リビング)</p>	<p>談話室で何もせずに椅子に座っている。そこへ介護職員がトイレ誘導に来てやりとりをしているシーンと、利用者が嫌そうな表情をしているシーン、介護職員の困ったような表情をしているシーンを撮影。</p>

	アルツハイマー型 (Aさん) モデル C	その他 (脳血管、レビー、 前頭側頭……)	必要物品、撮影時のレイ アウト	撮影、録音のポイント
拒否	<p><u>②着替えの拒否</u></p> <p>介護職員が居室を訪問。「〇〇さん、少し上着が汚れているようなので、他の洋服に着替えましょうか」と声掛けするが、「この服のままでいいですから」と拒否を続ける。</p>	<p>良い一例として</p> <p>清潔な上衣を2枚用意し、選んでもらう声掛けをする。また、着替えの手伝いをさせていただく旨を説明し、着替える順番を声掛けする、着替える動作を見せる。</p>	<p>&lt;登場人物&gt;</p> <p>利用者1人 介護職員1人</p> <p>&lt;必要物品&gt;</p> <p>シミが付着しているなど汚れた上衣 (シャツでもトレーナーでも何でも可)</p> <p>清潔な上衣2枚</p> <p>&lt;撮影場所&gt;</p> <p>演習室 (ベッド)</p>	<p>シミが付着している上衣の部分、利用者が拒否をしている表情、介護職員が困っている表情を撮影。</p>

	アルツハイマー型 (Aさん) モデルC	その他 (脳血管、レビー、 前頭側頭……)	必要物品、撮影時のレイ アウト	撮影、録音のポイント
拒否	<p><u>③食事の拒否</u></p> <p>食堂で利用者の目の前に配膳をしたが、自分から食べようとしな ない。介護職員が声掛けしても居眠りを 続けている (傾眠状態)。職員がスプ ーンを口に運ぶがそれでも口が開 かない。</p>	<p>良い例の一例として、</p> <p>①傾眠を解消するために 窓越しで陽に当たり、し っかり覚醒をしてもら ってから、食堂の椅子に誘 導し、これから食事の時 間であることを伝え、献 立を説明し、食事を認識 してもらおう。</p> <p>②食べ方が分からない場 合は、食べ方を見てもら うためにジェスチャーを 取り入れる。</p>	<p>&lt;登場人物&gt;</p> <p>利用者 1 人 介護職員 1 人</p> <p>&lt;必要物品&gt;</p> <p>テーブル、椅子、配膳トレ ー、茶碗、お椀、皿、小鉢、 箸、スプーン、コップ、ご 飯、みそ汁、小鉢に盛るお かず (惣菜でも何でも 可)、お茶</p> <p>&lt;撮影場所&gt;</p> <p>食堂</p>	<p>利用者が傾眠し食事を食 べようとしな ないシーン、 介護職員がスプ ーンを口 に運んでも口を開かない シーンを前方から撮影。</p>

	アルツハイマー型（Aさん） モデルC	その他（脳血管、レビー、 前頭側頭……）	必要物品、撮影時のレイ アウト	撮影、録音のポイント
拒否	<p><u>④入浴の拒否</u></p> <p>月曜日の午前10時30分。今日は男性の入浴日。リビングでテレビを見ている利用者。そこへ介護職員が「〇〇さん、入浴の時間ですので一緒にお風呂へ行きましょう」と声掛けをするが、利用者は「今日はいい。風呂は入らない」と断固拒否する。</p>	<p>良い一例として</p> <p>①入りたくない気持ちを受容し、時間を置いて再度声掛けする。</p> <p>②石鹸などが入っている洗面器を用意し、お風呂に行くことを認識してもらおう。</p>	<p>&lt;登場人物&gt;</p> <p>利用者1人 介護職員1人</p> <p>&lt;必要物品&gt;</p> <p>椅子、テレビ、テーブル、石鹸、浴用タオル、洗面器</p> <p>&lt;撮影場所&gt;</p> <p>談話室（食堂、リビング）</p>	<p>利用者がテレビを見ているシーン、介護職員が入浴の声掛けをしているシーン、利用者が機嫌悪そうに拒否をしている表情を撮影。</p>

	アルツハイマー型 (Aさん) モデルC	その他 (脳血管、レビー、 前頭側頭……)	必要物品、撮影時のレイ アウト	撮影、録音のポイント
拒否	⑤外出の拒否 午後、介護職員がリビングにいる利用者に「天気が良いので散歩に行きませんか」との声掛けを行うが、少し悩みながら「今日はいいわ……」と拒否。	良い一例として ①途中で疲れてしまったり、体調が悪くなったり、体調が悪くなったりしても利用者のペースに合わせて行くことを伝え、安心できる声掛けを行う。 ②散歩の前にトイレに寄ることを伝え、また途中にもトイレがあることを説明する。 ③これから庭の花の水やりに行くことを伝え、一緒に手伝ってもらえないかお願いをする。	<登場人物> 利用者 1人 介護職員 1人  <必要物品> 特になし。  <撮影場所> 談話室 (食堂、リビング)	介護職員から散歩の声掛けをされた時に、少し考えながら「今日はいいわ……」と返答しているシーンを撮影。

	アルツハイマー型	その他（脳血管、レビー、前頭側頭……）	必要物品、撮影時のレイアウト	撮影、録音のポイント
職業（行動分析） （1日目PM）	<p>昔の職業（生活歴）が日常生活に影響を及ぼすことへの理解を深める教材として。</p> <p><u>①主婦：こどものことを気にしている（帰宅願望ではあるが主婦の部分）を強調。</u></p> <p>16時、施設のリビングで女性利用者がそわそわし始めている。介護職員が「〇〇さん、どうされましたか？」と声を掛けると、「そろそろ家に帰らないと」と返答。職員が「どうしてですか？」と聞くと、「もう子供が帰ってくる時間ですので、急いで帰らないと」と言い、ドア（エレベーター）の方向へ急ぎ足で向かう。</p>		<p>&lt;登場人物&gt; 主婦役の利用者1人 介護職員1人</p> <p>&lt;必要物品&gt; 特になし。</p> <p>&lt;撮影場所&gt; 談話室（食堂、リビング） または廊下、どちらでも可。</p>	<p>介護職員と利用者がやりとりをしているシーンから、利用者がエレベーターの方向へ急ぎ足で歩いていこうとするシーンまでを撮影。主婦としての役割を強調。</p>

	アルツハイマー型	その他（脳血管、レビー、前頭側頭……）	必要物品、撮影時のレイアウト	撮影、録音のポイント
職業(行動分析) (1日目PM)	<p>②警備員(石岡先生):ずっと立っている、敬礼をする(警察官)。</p> <p>リビングの全体を見渡せる中央で、男性利用者が両手を後ろに回し、姿勢正しく、全く動かずにずっと立っている。時々、左右を見渡しながら、右指で確認作業を行っている。</p>		<p>&lt;登場人物&gt;</p> <p>警備員役の利用者1人 4～5人の利用者 介護職員1人</p> <p>&lt;必要物品&gt;</p> <p>男性利用者役は石岡先生。服装はボタンシャツとスラックス。</p> <p>&lt;撮影場所&gt;</p> <p>談話室(食堂、リビング)</p>	<p>談話室で4～5名程度の利用者がテーブルを囲んでいる(お茶を飲む利用者、テレビを見ている利用者、歩き回っている利用者、タオルをたたんでいる利用者等)。</p> <p>介護職員は忙しそうに動き回っている。</p> <p>これらのシーンと壁際に立ち、皆を眺めている(警備している)警備員の様子を撮影。</p>

	アルツハイマー型	その他（脳血管、レビー、前頭側頭……）	必要物品、撮影時のレイアウト	撮影、録音のポイント
職業（行動分析） （1日目PM）	<p>③女性看護師：夜中に他の利用者の居室（ベッド）の巡回をしている。</p> <p>深夜1時、自分のベッドから起き上がり、他の入所者の部屋（ベッド）を次から次へと回り始める。介護職員がそれを発見し、徘徊かと思い、「〇〇さん、こんな時間にどうしたのですか？」とびっくりした様子で声を掛ける。しかし、利用者は「巡回の時間ですから」と言い、役割を全うすべく眠っている利用者の安全確認を行っている。</p>		<p>&lt;登場人物&gt; 看護師役の利用者1人 介護職員1人</p> <p>&lt;必要物品&gt; 特になし。</p> <p>&lt;撮影場所&gt; 演習室または廊下でも可。</p>	<p>可能であれば照明を薄暗くし、利用者がベッドから起き上がり、他の利用者のベッド周辺で見回りを行っているシーンと、介護職員とやりとりをしているシーンを撮影。</p>

	アルツハイマー型	その他（脳血管、レビー、前頭側頭……）	必要物品、撮影時のレイアウト	撮影、録音のポイント
職業（行動分析） （1日目PM）	<p>④大学教授（野田先生）：朝、出席簿を読みだす。</p> <p>介護職員が朝9時にご自宅を訪問（在宅の雰囲気が難しければ施設の雰囲気でも可）し、「〇〇さん、おはようございます」と挨拶し入室すると、利用者が急に布団（ベッド）の上で雑誌（新聞紙）を両手に持ち、名前を読み上げる。「青木くん、石井さん、加藤さん、鈴木くん、田中さん、……」と雑誌を見ながらも、時々前を見ながらひたすら名前を読み上げている。その時、介護職員は隣で啞然としびっくりしている。</p>		<p>&lt;登場人物&gt; 大学教授役の利用者1人 介護職員1人</p> <p>&lt;必要物品&gt; 新聞紙 浴衣（パジャマでも可）</p> <p>&lt;撮影場所&gt; 在宅の雰囲気が理想。 和室で布団があれば尚よい（難しい場合はベッド上でも可）。</p>	<p>介護職員が挨拶をするシーンから、布団の上で雑誌（新聞紙）を持ち出席を取っているシーン、介護職員がびっくりしているシーンを撮影。</p>

	アルツハイマー型	その他（脳血管、レビー、前頭側頭……）	必要物品、撮影時のレイアウト	撮影、録音のポイント
職業(行動分析) (1日目PM)	<p>⑤寿司職人：握る動作</p> <p>リビングのテーブルで手持ち無沙汰の様子で座っている。そこへ、3～4人の利用者がテーブルに集まってくる。彼等が寿司職人の目の前の椅子に座り始めると、急に姿勢を正し、手を洗う動作を行い、寿司を握る動作を始める。</p>		<p>&lt;登場人物&gt;</p> <p>寿司職員の利用者1人 他の利用者3～4人 介護職員1人</p> <p>&lt;必要物品&gt;</p> <p>テーブル、椅子</p> <p>&lt;撮影場所&gt;</p> <p>談話室（食堂、リビング）</p>	<p>リビングのテーブルで手持ち無沙汰の様子で座っているシーンから、目の前の椅子に3～4人の利用者が集まってくるシーン、目の前に人が集まってきた瞬間、真剣な表情に一変し、寿司を握るシーン、他の利用者が不思議そうに見ているシーン、寿司を握っている手元のシーンを撮影。</p>

	アルツハイマー型 (Aさん) モデル C	その他 (脳血管、レビー、 前頭側頭……)	必要物品、撮影時のレイ アウト	撮影、録音のポイント
認知機能の低下 による行動	<p>(静止画)</p> <p>①椅子に座るとき、半分だけ座っている</p> <p>②歩行中、机や椅子があると分かっているのに、それらの端にぶつかってしまう。</p> <p>③鏡に映った自分を他人と認識してしまい、鏡に映った自分と会話をしている。</p>		<p>場人物は①②③⑤は利用者のみ。④は息子役が必要。</p> <p>&lt;必要物品&gt; 椅子 &lt;撮影場所&gt; 談話室 (食堂、リビング)</p> <p>&lt;必要物品&gt; テーブル、椅子 &lt;撮影場所&gt; 談話室 (食堂、リビング)</p> <p>&lt;必要物品&gt; 壁に掛けてある鏡 &lt;撮影場所&gt; 鏡がある場所であれば、</p>	<p>椅子の座面が正しく認識できず、半分だけ座っている様子を前方と横から撮影。</p> <p>テーブルや椅子の足に自分のつま先がぶつかってしまう。全体写真と足元を撮影。</p> <p>全体写真と鏡に向かって会話をしている表情を撮影。</p>

	アルツハイマー型 (Aさん) モデルC	その他 (脳血管、レビー、 前頭側頭……)	必要物品、撮影時のレイ アウト	撮影、録音のポイント
*追加 認知機能の低下 による行動	<p>④面会に来た息子に向かって、他界した夫と間違え「あなた」と言って喜んでいる。</p> <p>⑤自分の足の長さが認識できず、コードに後ろ足が引っかかってしまう。</p>		<p>廊下や居室等どこでも可。</p> <p>&lt;必要物品&gt; 特になし <u>*息子役が必要。</u></p> <p>&lt;撮影場所&gt; 談話室 (食堂、リビング)、 ベッドどちらでも可。</p> <p>&lt;必要物品&gt; 電気コード &lt;撮影場所&gt; 談話室 (食堂、リビング)</p>	<p>息子と対面している写真と表情を撮影。</p> <p>全体写真とコードに後ろ足が引っかかっている写真を撮影。</p>

	モデルE	その他	必要物品、撮影時のレイアウト	撮影、録音のポイント
配膳場面	<p>シーン1</p> <p>周りでいろいろな「音」がしている。 (テレビ、コール、「コール対応します」と叫ぶ職員の声、歩いている音、話し声など)「Aさん、ご飯です」と横から配膳しても食べない。なかなか食事を摂らないため職員が「Aさん！ Aさん！ ご飯ですよ！」と言い肩を揺さぶり、Aさんは驚く。</p> <p>シーン2</p> <p>それほど音がなく(静かな音楽だけ？コールが鳴っていたら素早く止めに向かうなど)、「Aさん、ご飯です」と横から配膳し、しっかり食事に視線がいつているか、Aさんに触れてみたりしながら配膳されたことに意識を向けて食事を始める。</p> <p>画面を無くし、各シーンの音だけ聞けるようにもする。</p>		<p>テーブル、椅子、車椅子、食事(ご飯 or お粥、味噌汁、副食)、箸、お盆、テレビ代わりにする大きなモニター等、職員4名(配膳、コール対応、職員間でおしゃべり)</p>	<p>シーン1</p> <p>利用者はいろいろな音をするため、きょろきょろし、注意散漫な様子。名前を呼ばれていることに気づくことができるのか、どこからどんな音が聞こえているのか分からない状況。 (音の定位が分からないよう録音)</p> <p>画面を無くし、音だけの映像の中で、肩を揺さぶられ名前を呼ばれるシーンはAさん目線のものを撮る。</p> <p>シーン2</p> <p>職員は利用者と目線の高さを合わせ声をかける</p>

	モデルE	その他	必要物品、撮影時のレイアウト	撮影、録音のポイント
学生のコミュニケーション場面	<p>シーン1 （会話内容：質問攻めや自分のことも話している等） 実習初日に学生が利用者に挨拶をし、それに対して「学生さん、頑張ってね」等の声をかけてくれた利用者があり、その人にばかりコミュニケーションをとる。同じテーブルに座っている利用者には話しかけず、その利用者はだんだん伏せていってしまう（孤立感・孤独感）。</p> <p>シーン2 同じテーブルの利用者も含めての会話を行う。その利用者は自分からは話しかけてはこないが、話しかけると返答があり会話が成り立つ。利用者間でのコミュニケーションも生まれる。</p>		テーブル、椅子、車椅子、利用者2～3名、学生	<p>シーン1 学生は質問攻め（年齢、出身地、好きな食べ物、嫌いな食べ物、家族について、お子さんはいるのか、面会の頻度など）をし、利用者の返答に対して「そうですね」程度の返答。</p> <p>シーン2 学生は、自分の出身地から伝え、他の利用者にも聞いていき、その名産品などの話から盛り上がる。</p>

Cさん 身体障害に伴う事例 設定

64歳 男性 脳梗塞後遺症 片麻痺

介護老人保健施設から在宅復帰を目指している。

ケアプランの総合的な援助の方針は「ヘルパーさんに手伝ってもらいながら、自宅での生活を継続していく」。

	脳梗塞後遺症（Cさん） モデルD	その他（できたら撮影する場面）	必要物品、撮影時のレイアウト	撮影、録音のポイント
食事	<p><u>老健での様子</u> 美味しく楽しく食べていない Cさんへの対応</p> <p>【良い例】 会話しながら、食べられるように支援する。なぜそのような状況になっているのかを観察し、考える。</p> <p>【悪い例】 食事がすすまない Cさんのお膳を職員が何も言わず、急に下膳する。</p>	<p><u>自宅での様子</u> 《利き手が麻痺になり、工夫が必要な例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自助具を変更することにより、スムーズに食べられる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食事一式（食器はプラスチック）</li> <li>・ エプロン</li> <li>・ 食堂の雰囲気（Cさん、数名の利用者、介護者）</li> <li>・ 自助具（食器は陶器）</li> <li>・ 食事一式</li> </ul>	<p>食事内容のアップ</p> <p>利用者が食事の時間につまらなそうにしている様子や表情のアップ</p>

		《偏った食事例》 ・家族が食事の栄養バ ランスを考えることが難 しい	・パン	
--	--	---	-----	--

	脳梗塞後遺症（Cさん） モデルD	その他（できたら撮影する場面）	必要物品、撮影時のレイアウト	撮影、録音のポイント
コミュニケーション	<p>言語障害(外出前の場面) 自宅での様子 外出のため、上着を選ぶシーン</p> <p>CW「これから病院に行くので、上着を着ましょう。どの上着にしますか？」</p>	<p>答えられる能力に応じて、いくつかの質問の仕方を撮る。</p> <p>「どれにしますか？」、 「これでいいですか？」、 ジェスチャー等</p> <p>・視覚障害の人と服を選ぶシーン。</p>	<p>上着 ハンガーかけ</p>	

	脳梗塞後遺症（Cさん） モデルD	その他（できたら撮影する場面）	必要物品、撮影時のレイアウト	撮影、録音のポイント
排泄	<p>介護老人保健施設のトイレと違い、環境の変化により本人の思う通りに排泄ができない。</p> <p><u>自宅での様子</u> 杖歩行か車椅子でトイレにいき、手すりがなく、掴むところが定まらずにうまく座れない例。</p>	<p><u>老健での様子</u> ・麻痺側の痺れにより立ち上がりが難しい例。</p>	<p>自宅のようなトイレ 車いす 手すり 杖 パジャマ</p>	

	脳梗塞後遺症（Cさん） モデルD	その他（できたら撮影する場面）	必要物品、撮影時のレイアウト	撮影、録音のポイント
着脱	ゆっくり一人で着替える ・ほとんど一人でできるのを見守る。座位の安定を確認後、羞恥心に配慮して声かけをする。	・外出後、疲れていて一部介助の場面（座位）。 介助者が着衣の順番を間違えて、利用者が「痛い」と感じてしまう。	・着替えやすい服 ・椅子	

	脳梗塞後遺症（Cさん） モデルD	その他（できたら撮影する場面）	必要物品、撮影時のレイアウト	撮影、録音のポイント
連携	<p>サービス担当者会議の開始場面</p> <p>担当者会議開始 CM「担当者会議を始めます。早速ですが、自己紹介をお願いします（順番に自己紹介：「老健の看護師です」……「在宅の看護師です」…等）。</p> <p>「老健から自宅へ帰るということで、おめでとうございます（開始の挨拶）……①環境の変化で想定できること、②総合的な援助の方針の確認、③各事業所の役割について確認していきます」</p>	<p>・専門職の思惑（心の声）</p>	<p>専門職の服装 白衣 ポロシャツ×2 スクラブ×2</p> <p>ネームプレート</p> <p>専門職のファイル</p> <p>ケアプラン全員分</p>	<p>挨拶後の専門職のカット割</p> <p>本人 《家で生活したい》</p> <p>医師 《状態は安定している》</p> <p>看護師 《薬を飲むのだろうか》</p> <p>家族 《家で介護できるのか》</p> <p>リハビリ 《環境の変化に対応できるか》</p> <p>訪問介護 《家でどれだけのことができるのかな》</p>

・シナリオ集（令和5年1月20～21日）

映像のねらい：介護職員のかかわり方、認知症の人を理解するための3つのステップ（評価的理解→分析的理解→共感的理解）				
	脳血管性認知症（森田光弘さん）	その他（脳血管、レビー、前頭側頭……）	必要物品、撮影時のレイアウト	撮影、録音のポイント
暴言・暴力	<p>○シーン1（評価的理解）</p> <p>リビング周辺で男性利用者が車いすに座っている。そこへ介護職員が通りかかる。利用者は介護職員に暴言を吐くが、介護職員は利用者に近寄らないようにしている。利用者の暴言はよくあることで、周囲にいる他の利用者や職員に対しても当たり散らすことが多い。</p> <p>利：「おい、お前、邪魔だ」（手を振り払いながら大きな声で叫ぶ）  職：「……」（近寄らないように通り過ぎる）  利：「おい、お前、ふざけるなよ」（当たり散らしている）  職：「あの利用者、ほんと、めんどくさい！ また今日も担当になっちゃって、ついてないなー」（他の職員に愚痴をこぼしている）</p>	<p>シーン1-1  齊藤先生監修  男性利用者：  女性職員：</p>	<p>場所：リビング  準備物：車いす、男性利用者の服装（セーターとスラックスなど）</p> <p>男性利用者1名  女性職員1名  その他の職員2名  その他の利用者1～2名程度</p>	<p>介護職員が利用者の言動に対し、「この利用者は嫌い」というように、表面上の言動で利用者を評価してしまい、利用者に近寄らないようにしているシーン。</p>

	<p>○シーン2 (分析的理解)</p> <p>シーン1の出来事について、カンファレンスを行い、なぜ、森田さんはいつも暴言を吐いてしまうのか、その言動の原因について話し合っている。</p> <p>職1：「森田さん、最近また暴言を吐くことが多くなっている気がするの」</p> <p>職2：「そうそう、私も同じこと感じていたわ」</p> <p>職3：「病気が悪化しているのかしら？それとも薬の副作用かしら？」</p> <p>職1：「最近ご家族も面会に来ていない様子よね」</p> <p>職2：「暴言を吐くのは、寂しくて誰かと話をしたいという気持ちがあるのではないかしら？」</p> <p>職3：「元々は社交的で、地域では自治会長をされていたのよね」</p> <p>職1：「私達介護職員のかかわり方も変えていく必要があるのかもしれないわ」</p>	<p>シーン1-2 齊藤先生監修 女性職員： その他の職員1： その他の職員2：</p>	<p>場所：会議室の雰囲気 準備物：バインダー、ノート、利用者情報、筆記用具など</p> <p>女性職員 その他の職員2名</p>	<p>介護職員の感情で終わることなく、専門職として利用者の言動に疑問を抱き、その原因や意味を探るシーン。</p>
--	--	--	---	--

	<p><u>○シーン3（共感的理解）</u></p> <p>男性利用者が暴言を吐いている理由がみつきり、介護職員同士で森田さんの気持ちに共感をしながら、接し方について話し合っている。</p> <p>職1：「なるほど……、森田さんが暴言を吐いていたのは、さびしいという気持ちからだっただのね」</p> <p>職2：「ご家族も最近面会に来ていないし、私達も忙しくて森田さんとじっくり話をする時間が持てていなかったわ」</p> <p>職3：「これからはもっと小まめに声掛けをして、森田さんに寄り添ってみる必要があるわね」</p>	<p>シーン1-3 齊藤先生監修 女性職員： その他の職員1： その他の職員2：</p>	<p>場所：会議室の雰囲気 準備物：バインダー、ノート、利用者情報、筆記用具など</p> <p>女性職員 その他の職員2名</p>	<p>分析の結果、「言葉や行動の意味」がわかり、利用者本人の気持ちに共感するシーン。</p>
--	---	--	---	--

	<p>○シーン4（3ステップ後の変化）</p> <p>リビングで、男性利用者や他の利用者が寛いでいる。そこへ介護職員が2～3名通りかかるが、忙しい中でも必ず男性利用者へ声掛けを行いながら通り過ぎている。介護職員の行動が変わったことで、男性利用者の暴言がなくなり、笑顔を見せるようになっている。</p> <p>職1：「森田さん、こんにちは！」  利：「おー」（手を上げて）  職2：「森田さん、今日はからだの調子はどうですか？」  利：「まあまあだよ」  職3：「森田さん、もう少しでお昼ごはんですよ。今日のメニューはさばの味噌煮みたいですよ」  利：「おー、そうか～、俺はさばの味噌煮が大好きなんだよ～」（満面の笑み）</p>	<p>場所：リビング  準備物：車いす、男性利用者の服装（セーターとスラックスなど）</p> <p>男性利用者1名  女性職員1名  その他の職員2名  その他の利用者1～2名程度</p>	<p>介護職員の対応の変化と、男性利用者に笑顔が見え始めるシーン。</p>
--	---	--	---------------------------------------

シーン1-4  
齊藤先生監修  
男性利用者：  
女性職員：  
その他の職員1：  
その他の職員2：

映像のねらい：家族への支援の方法（家族へのねぎらい→訴えや困りごとに対する傾聴→専門職としての助言）

	アルツハイマー型認知症（上田光子さん）	その他（脳血管、レビ ー、前頭側頭……）	必要物品、撮影時のレ イアウト	撮影、録音のポイント
相談援助	<p>認知症のある利用者の母と在宅で一緒に生活する娘。夜中になると母が家の外へ出て行ってしまい徘徊する、昼夜逆転がある、過食や異食などがある。娘は疲れ切っていて、このまま介護を続けていくことに不安感や孤独感を抱いている。しかし、介護職員のねぎらいの言葉や助言に元気をもらい、だんだんと明るくなっていく。</p> <p>○シーン1 家族へのねぎらい</p> <p>職：「明子さん（娘の名前）、いつもお手伝いくださり有難うございます。お仕事をしながら、お母様の介護を一生懸命されていて、本当に頭が下がります」</p> <p>娘：（疲れ切っていて言葉が出ず、首を横に振っている）</p> <p>職：「お仕事をしながら自宅で介護をするのは、大変なことが沢山あると思います」</p> <p>娘：（首を縦にふり、うなずいている）</p>	<p>シーン2-1 齊藤先生監修 職員： 利用者の家族（娘）：</p>	<p>場所：自宅または相談室の雰囲気</p> <p>準備物：バインダー、ファイル、筆記用具</p> <p>職員（援助者）1名 ご家族（娘役）1名</p>	<p>家族が疲れ切ってしまっていたが、介護職員に話を聴いてもらい、具体的なアドバイスをもらうなかで、不安が軽減し、表情が明るくなり、介護サービスを利用して良かったと思ってもらえるシーン。</p>

職：「私たちは、娘さんが疲れていないだろうか？ 睡眠はちゃんと取れているだろうか？ と、娘さんのからだのことがとても気になっているんです」  
娘：（少し顔が上がり、話をし始めるような雰囲気表情で、うなずいている）  
職：「もし、何かお困りのことがあったら、遠慮なく言ってくださいね」

○シーン2 家族の思いや希望を傾聴

家族が泣きそうになりながら、毎日介護が大変で疲れ切っているという訴えをしている。介護職員は理論を述べず、ただただ家族の思いを傾聴し、受容している。

娘：（心を開き、話し始める）「実は、最近、夜中に徘徊することが多くなって、母がいなくなる度に探しまわっているんです」  
職：（うなずきながら、傾聴している）  
娘：「それだけでなく、夜中になると冷蔵庫の中をあさって、食べ物を食べ始めたり……。目を離すことができないんです」

シーン2-2  
齊藤先生監修  
職員：  
利用者の家族（娘）：

職：「そうでしたか。それは本当に大変な  
 思いをされていらっしゃるのですね。それ  
 では睡眠もあまり取れてないのではない  
 ですか？」

娘：「そうなんです。最近、全然眠れてな  
 くて、毎日暗いトンネルの中にいるよう  
 な感覚で……。私の人生もこのまま終わっ  
 てしまうんじゃないかって、とても苦し  
 くなってしまっ」

職：「希望が見えなくなり、とても苦し  
 いと思われているのですね」

娘：（うなづく）

職：「今までよく頑張って来られましたね。  
 これからどのようにしていけばよいか、一  
 人で悩まずに、私たちと一緒に考えてい  
 きましょう」（職員は娘さんの身体に触れる）

娘：「はい」（笑顔が見え始める）

○シーン3 専門職としての助言  
 ここでは、深夜の徘徊で困っている家族  
 に対し、徘徊にはその原因や理由などの背  
 景があることや、対応方法について専門的

シーン2-3  
 齊藤先生監修  
 職員：  
 利用者の家族（娘）：

	<p>立場から助言する。専門職の助言は家族にとって大きな支えになる様子を描く。</p> <p>職：「明子さん、お母様の徘徊なのですが、ただ意味もなく、歩き回っているのではないですよ。お母様はお母様なりの理由があって、歩き回っていると思うんです」</p> <p>娘：（関心のある態度で話を聞く）</p> <p>職：「たとえば、夜になると歩き回るのは……。お母様は以前看護師をされていましたよね。その時のことが鮮明に残っていて、夜になると巡回に行かなきゃという使命感で歩いているのかもしれない」</p> <p>娘：（なるほどといった風に身を乗り出して聞いている）</p> <p>職：「また、認知症によって昼間の活動量が少なくなって、昼夜逆転を引き起こしてしまっているのかもしれないね」</p> <p>娘：（納得している風に聞いている）</p> <p>職：「少し昼間の活動を増やしていくことから始めてみませんか」</p> <p>娘：「わかりました。徘徊にも理由があるなんて全然知らなかったです。加藤さん</p>			
--	--	--	--	--

	<p>(職員) がいてくれて本当に心強いです。 また頑張れる気がします。これからも色々 教えてください」(明るい表情で)</p>			
--	--	--	--	--

映像のねらい：BPSDへの対応（対応方法を考える前に、利用者の気持ちや症状に対する原因を分析する）

	アルツハイマー型認知症（名前はなし） モデル：女性	その他（脳血管、レビ ー、前頭側頭……）	必要物品、撮影時のレ イアウト	撮影、録音のポイント
頻繁にトイ レへ行く	さっきトイレへ行ったばかりなのに、また 行きたいという訴えがある（トイレへ誘導 するが排泄がない）。  利：「ねーねー、お姉さん。トイレに行き たいんだけど、連れてってくれる？」 職：「さっき、行ったばかりですよ」 利：「そうだったけ？ とにかく連れてって よ」 職：（またか……という表情）	<b>シーン3</b> 齊藤先生監修 利用者： 職員：	場所：リビング 準備物：杖 利用者役：1名 介護職員：1名	焦っている表情で、そわそわし ている。
居眠りをし て食事をし ない	目の前に配膳されているが、傾眠であり全 く食事に手をつけない。	<b>シーン4</b> 齊藤先生監修 利用者：	場所：食堂 準備物：配膳トレイ、茶 碗（白）、汁椀、皿、箸、 白米、味噌汁、おかず 利用者役：1名	目をつぶり、身体は傾き、うとう としている。
異食	居室またはリビングで食べ物ではないも の（例えば、塗り薬、入れ歯、小物など）	<b>シーン5</b> 齊藤先生監修 利用者：	場所：食堂 準備物：居室に置いて	美味しそうな表情で食べ、満足 している。

<p>収集癖</p>	<p>を口に入れてしまう。</p> <p>(できれば居室の雰囲気です)利用者が自分の周りに色々な物を集め、安心感を抱いているシーン。</p> <div data-bbox="595 663 904 844" style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #f4a460;"> <p>シーン6 齊藤先生監修 利用者：</p> </div>	<p>レビー小体型認知症</p>	<p>あるもので手に取りやすいもの(入れ歯など、葉類) 利用者役1名</p> <p>場所：居室の雰囲気に何となく似ている所。 準備物：収集するものは撮影に使っている物品でOK。 利用者役：1名</p>	<p>物に囲まれていることで、安心した表情をしている。</p>
<p>幻覚</p>	<p>①リビングで、振戦のある利用者が突然、「あそこにキリンがいる」(用意できる縫いぐるみの動物名にする)とびっくりしながらも興味津々で見ている。</p> <p>②上記同様で、泥棒のパターン</p>	<p>レビー小体型認知症</p>	<p>場所：リビング 準備物：縫いぐるみ(高橋先生にご準備頂く) 泥棒の服装(男性用ジャンパー、帽子、サングラスなど黒づくしの物) 利用者役：1名</p>	<p>実在しないものが利用者には実在しているように見えているということがわかる映像にした。</p>
<div data-bbox="848 1099 1144 1377" style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #f4a460;"> <p>シーン7 齊藤先生監修 利用者： ぬいぐるみ： 泥棒：</p> </div>				

	<p><b>シーン8</b> 齊藤先生監修 利用者： 介護職員：</p>	<p>ろう便 おむつをはいている利用者が、おむつの中に排泄した便を触りながら、もぞもぞ動いている。</p>	<p>前頭側頭型認知症</p>	<p>縫いぐるみ役：1名 泥棒役：1名</p>	
<p>抑うつ</p>	<p><b>シーン9</b> 齊藤先生監修 利用者： 介護職員：</p>	<p>介護職員が話しかけても、周囲が騒いでいても、無関心な状態。</p>		<p>場所：リビング 準備物：おむつ、便に似たもの？ 粘土など。 利用者役：1名 場所：リビング 準備物：なし 利用者役：1名 介護職員：1名</p>	<p>おむつの中の便が気持ち悪くて、早くどうにかしたいという気持ちで取り出しているシーン。  周囲の状況に無関心、無表情であるシーン</p>
<p>社会性の欠如</p>	<p><b>シーン10</b> 齊藤先生監修 利用者： 介護職員：</p>	<p>身だしなみに無頓着（髪はボサボサ、服装も乱れている）で、いつも同じ道順で歩き続けている、いつも同じ行動をしている。</p>		<p>場所：廊下 準備物：特になし。 利用者役：1名</p>	<p>常同行動、身だしなみにも無頓着になる、相手に対して遠慮が出来ない、抑制がきかない、言葉の自発性の低下などを表すシーン</p>

		その他	必要物品、撮影時のレイアウト	撮影、録音のポイント
不適切な介護	<p>シーン1 就寝前、リビングで1人で椅子に座っている。テーブルに手をつき、ゆっくり立ち上がり横に1歩ずれるが、そのまま転倒してしまう。職員はその様子を見ていた。</p> <p>シーン2 介護職員は転倒した利用者のそばに行き、「どうしましたか？ お部屋に戻りたかったんですか？」と声をかけ、ズボンのウエスト部分を持ち立たせようとするが、立つことができず、利用者自身もテーブルに手を伸ばし立とうとするが立つことができない。</p>	<p><b>シーン11-1</b> 高橋先生監修 利用者： 介護職員：</p> <p><b>シーン11-2</b> 高橋先生監修 利用者： 介護職員：</p>	テーブル、椅子、車椅子 利用者1名、介護職員1名	

	<p>シーン3 立ち上がりはでき、右手はテーブル、左手は介護職員が支えているが、歩行への踏み出しができない。介護職員が「お部屋に戻りたいんですよね？行きましょう」と左側から引っ張る。近くに車椅子がある。</p> <p>シーン4 テーブルの端のため、右手を置く場所がない状況。介護職員は左側のみを支えている状況で「ほら、頑張って行きましょう」と引っ張り、利用者は右手の支えが無くなり、再度崩れるように転倒する。</p> <p>シーン5 普段の利用者の移動状況。手引き歩行の様子や、立ち上がり時のふらつきなどが見られた時、「車椅子にしますか」と伝えたと、頷き、車椅子に移乗する。</p>	<p>シーン11-3 高橋先生監修 利用者： 介護職員：</p> <p>シーン11-4 高橋先生監修 利用者： 介護職員：</p> <p>シーン11-5 高橋先生監修 利用者： 介護職員：</p>		
--	---	--	--	--

		その他	必要物品、撮影時のレイアウト	撮影、録音のポイント
待つ介護 立位→歩行介助	<p>シーン1 介護職員「Bさん、バスが来ました。さあ行きましょう」と声をかけ、Bさんの返答を待たず全介助にて立ってもらい、杖を渡し、左側から支え介護職員のペースで進む</p> <p>シーン2 介護職員「Bさん、バスが来ましたので、バスまで行きましょうか」 Bさん「はい」 介護職員「Bさん、立つことはできますか」 Bさん「はい、できそうです」 介護職員「それでは、立ちましょうか」 Bさんは立ち上がろうとするが、腰が上がらない。 介護職員「Bさん、私お手伝いしましょうか」 Bさん「お願いします」</p>	<p>シーン12-1 高橋先生監修 利用者： 介護職員：</p> <p>シーン12-2 高橋先生監修 利用者： 介護職員：</p>	短下肢装具、椅子、杖、利用者1名、職員1名	<p>シーン1 職員は素早い介護を行う。</p> <p>シーン2 掛け声も本人に言ってもらい、Bさんのペースを尊重する。</p>

<p>臥床→端座位</p>	<p>(介護職員は右側の腰を支える)          介護職員「それではBさん、Bさんのタイミングで「いちにのさん」と掛け声をかけてください。「さん」の時に私も力をいれますね」          Bさん「はい。いち、にの、さん」          介護職員「立てましたね！ ふらついたりしていませんか」(杖を渡し)          「それでは、杖、右足、左足の順で進んでいきましょう」「ふらつかず、しっかり歩けていますね！」</p> <p>シーン1          介護職員「Bさん、おはようございます。朝ですよ。朝ごはんの時間なので起きましょう」          Bさんは横を向き手を動かし始める。          介護職員「それでは、起きますよ」          介助で端座位へ。</p>	<p style="text-align: center;"><b>シーン13-1</b>  <b>高橋先生監修</b>  <b>利用者：</b>  <b>介護職員：</b></p>	<p>ベッド、車椅子          利用者1名、介護職員1名</p>	<p>シーン1          「起きますよ」と話しかけながら介助する。</p>
---------------	--	---	--	---

<p>端座位→車椅子</p>	<p>シーン2  介護職員「Bさん、おはようございます。よく寝られましたか？ 朝ごはんの用意ができましたので起きませんか」  Bさん「おはようございます。起きます」  介護職員「Bさん、ご自身でベッドから起き上がれそうですか」  Bさん「やってみます」  介護職員が布団を足元にたたむ。  介護職員「それでは、ご自身で起き上がってみましょうか」  Bさんが起き上がる際、頭を支える。</p> <p>シーン1  介護職員「それではBさん、車椅子に移りましょう」  全介助で車椅子へ移る。</p> <p>シーン2  車椅子を用意する。</p>	<p>シーン13-2  高橋先生監修  利用者：  介護職員：</p> <p>シーン13-3  高橋先生監修  利用者：  介護職員：</p> <p>シーン13-4  高橋先生監修  利用者：  介護職員：</p>		<p>シーン2  介護職員はBさんの動作を確認しながら、必要な時に手を添える。</p>
----------------	---	---	--	---

	<p>介護職員「Bさん、ご自身で車椅子へは移れそうですか」</p> <p>Bさん「はい」</p> <p>介護職員「それでは、立ちやすいように、足を引き浅く腰掛けることはできますか」</p> <p>Bさん「はい」</p> <p>介護職員「では、車椅子に掴まってゆっくり立ってみましょうか」</p> <p>Bさんはゆっくり立ち上がる。</p> <p>介護職員「良いですね！ 立っていますね！ それではそのままゆっくり回って車椅子に腰をかけましょう」</p> <p>Bさんはゆっくり車椅子に腰をかける。</p>			
--	--	--	--	--

	左片麻痺のある人（岡本幸太郎さん）	その他（脳血管、レビー、前頭側頭……）	必要物品、撮影時のレイアウト	撮影、録音のポイント
<p>生活支援技術</p> <p>①左片麻痺のある人の着脱</p> <p>出演者</p> <p>利用者：男性1名</p> <p>職員：相談員1名、介護職員2名</p>	<p>①-1 相談員との面接</p> <p>○場面の説明：利用者と職員が話している（入居間もない場面）、介護老人保健施設を想定</p> <p>利用者像：脳梗塞、左片麻痺、車いす使用</p> <p>職「〇〇介護老人保健施設、相談員の××です。よろしくお願ひします。ここでの生活はどうですか？」</p> <p>利「やっと退院して、ここに移動してうれしいですよ。早く家に帰るために頑張らないとね」</p> <p>職「そうですね。焦らずにやってみましょうね」</p> <p>利：（右手でお茶を飲む）</p>	<p>シーン14-1</p> <p>松田先生監修</p> <p>利用者・岡本幸太郎</p> <p>：</p> <p>老健相談員</p> <p>：</p>	<p>《必要物品》</p> <p>①必要物品</p> <p><input type="checkbox"/>湯呑×2</p> <p><input type="checkbox"/>お茶</p> <p><input type="checkbox"/>相談員用のノート等</p> <p><input type="checkbox"/>相談員用に筆記用具</p> <p><input type="checkbox"/>車いす（自操式）</p> <p>②環境（リビング）</p> <p><input type="checkbox"/>テーブル</p> <p><input type="checkbox"/>椅子</p> <p><input type="checkbox"/>テーブルクロス</p> <p><input type="checkbox"/>テーブルに置く花</p> <p>③利用者服装</p> <p><input type="checkbox"/>上衣</p> <p><input type="checkbox"/>ズボン</p> <p><input type="checkbox"/>靴</p> <p>④介護者服装</p> <p><input type="checkbox"/>ポロシャツ</p>	<p>・左片麻痺があることを映像からも推測できる</p>

			<input type="checkbox"/> ズボン <input type="checkbox"/> 靴（スニーカー）  ⑤登場人物 <input type="checkbox"/> 利用者（男性）1名 <input type="checkbox"/> 職員（相談員）1名	
①-2 上衣の着脱（悪い例） ○場面の説明：外出のために上着を着る 職「岡本さん、こんにちは。これから散歩で外に行くので上着を着ませんか？」 利：「はい。そうします」 職：（全介助で上着を着せる（健側から着せてもいい）） 利：（不満そうな顔をしながら、黙って着せられている）	シーン14-2 松田先生監修 利用者・岡本幸太郎 : 介護職員1	<<必要物品>> ①必要物品 <input type="checkbox"/> 車いす（自操式）  ②環境（リビングもしくは廊下）  ③利用者服装 <input type="checkbox"/> 上衣 <input type="checkbox"/> ズボン <input type="checkbox"/> 靴 <input type="checkbox"/> 上着（羽織るもの）  ④介護者服装 <input type="checkbox"/> ポロシャツ <input type="checkbox"/> ズボン <input type="checkbox"/> 靴（スニーカー）		

			⑤登場人物 <input type="checkbox"/> 利用者（男性） 1名 <input type="checkbox"/> 職員（介護職） 1名	
	①-3 上衣の着脱（良い例） ○場面の説明：外出のために上着を着る 職「岡本さん、こんにちは。これから散歩で外に行くので上着を着ませんか？」 リ「はい。そうします」 職：「上着はこちらでよろしいですか？」 リ：「はい。これでいいです」 職：「では左腕からそでを通していきますね。右腕は入れられますか？ボタンは留められますか？」 （一つ一つの動作を確認しながら、残存機能の活用、脱健着患を実践しながら着脱の支援を行う）	シーン14-3 松田先生監修 利用者・岡本幸太郎 : 介護職員2 :	≪必要物品≫ ①-2と同じ 介護職員は別の職員とする	

	視覚障害のある人（小川清子さん） モデル：	その他（脳血管、レビー、 前頭側頭……）	必要物品、撮影時のレイア ウト	撮影、録音のポイント
生活支援技術 ②視覚障害のあ る人の食事  出演者 利用者：女性1 名 職員：介護職員 2名	②-1 利用者の思いがわかる場面 ○場面の説明：一人で折り鶴を折っ ている。視覚障害があり、折り紙が 見えないため、表裏が逆の状態で折 れている鶴があるが、上肢には問題 はない。 利「目が見えなくなって1か月ほど 経ったから、そろそろ自分でできる ことはできるようになりたいのだ けれど、なかなか言い出せないのよ ね」	シーン15-1 松田先生監修 利用者・小川清子 ：	≪必要物品≫ ①必要物品 <input type="checkbox"/> 折り紙 <input type="checkbox"/> 折り鶴（表裏逆の物も用 意）  ②環境（リビング） <input type="checkbox"/> 机 <input type="checkbox"/> 椅子 <input type="checkbox"/> テーブルクロス  ③利用者服装 <input type="checkbox"/> 上衣 <input type="checkbox"/> ズボン <input type="checkbox"/> 靴  ④介護者服装 なし  ⑤登場人物 <input type="checkbox"/> 利用者（女性）1名	・見えていない状態なの で、折り紙に視線は向けず に折る。

	<p>②-2 食事介護の場面（悪い例）</p> <p>職「小川さん、こんにちは。おやつ の準備ができたので、お手伝いしま すね」</p> <p>利「はい。お願いします」</p> <p>職：（全介助で食べさせる）</p> <p>利：（黙って声をかけられたら口を あける）</p>	<p><b>シーン15-2</b></p> <p>松田先生監修</p> <p>利用者・小川清子</p> <p>：</p> <p>介護職員1</p> <p>：</p>	<p>《必要物品》</p> <p>①必要物品</p> <p><input type="checkbox"/>おやつ（プリン）</p> <p><input type="checkbox"/>カップ</p> <p><input type="checkbox"/>飲み物</p> <p><input type="checkbox"/>スプーン</p> <p>②環境（リビング）</p> <p><input type="checkbox"/>机</p> <p><input type="checkbox"/>椅子</p> <p><input type="checkbox"/>テーブルクロス</p> <p>③利用者服装</p> <p><input type="checkbox"/>上衣</p> <p><input type="checkbox"/>ズボン</p> <p><input type="checkbox"/>靴</p> <p>④介護者服装</p> <p><input type="checkbox"/>ポロシャツ</p> <p><input type="checkbox"/>ズボン</p> <p><input type="checkbox"/>靴（スニーカー）</p> <p>⑤登場人物</p> <p><input type="checkbox"/>利用者（女性）1名</p> <p><input type="checkbox"/>職員 1名</p>	<p>・利用者は自分一人でで きと思っているので、不 満げな表情</p>
--	--	--	--	--

	<p>②-3 食事介護の場面（良い例）</p> <p>職「Bさん、こんにちは。おやつのできたので、説明しますね」</p> <p>利：「はい。お願いします」</p> <p>職：（クロックポジションで献立を説明。食器が倒れにくいように工夫する）</p> <p>職：「スプーンはこちらにあります。Bさんの手を失礼しますね」（Bさんの手を取り、スプーンのある場所に誘導する）</p> <p>利：「いただきますね」（自分でスプーンを持ち、食べ始める）</p>	<p>シーン15-3</p> <p>松田先生監修</p> <p>利用者・小川清子</p> <p>：</p> <p>介護職員2</p> <p>：</p>	<p>《必要物品》</p> <p>②-2と同じ</p> <p>介護職員は別の職員とする。</p>	
--	--	---	--	--

	アルツハイマー型認知症（佐野ゆきさん） モデル：	その他（脳血管、レビー、前頭側頭……）	必要物品、撮影時のレイアウト	撮影、録音のポイント
<p>介護の基本</p> <p>③介護の倫理・尊厳ある介護の実践「スピーチロック」</p> <p>出演者</p> <p>利用者：女性1名</p> <p>職員：介護職員2名</p>	<p>③-1 悪い関わりの場面</p> <p>○場面の説明：利用者は、リビングのテーブルを前にして車いすに乗り座っている。転倒リスクの高い利用者がテーブルの上にある花を直そうとして立ち上がる。</p> <p>利：（テーブルの上にある花を直そうとして立ち上がる）</p> <p>職：「何やっているんですか。危ないから座っててください！」</p> <p>利：（職員の声に驚き、花を直すことをあきらめて車いすに座る。じっと花を見つめている）</p> <p>職：「一人で立ったら危ないって何度も言っているじゃないですか。気をつけてくださいよ」</p>	<p style="color: red; text-align: center;">シーン16-1</p> <p style="color: blue; text-align: center;">松田先生監修</p> <p style="color: blue; text-align: center;">利用者・佐野ゆき</p> <p style="text-align: center;">：</p> <p style="color: blue; text-align: center;">介護職員1</p> <p style="text-align: center;">：</p>	<p>《必要物品》</p> <p>①必要物品</p> <p><input type="checkbox"/>花瓶</p> <p><input type="checkbox"/>花</p> <p><input type="checkbox"/>車いす</p> <p>②環境（ダイニング）</p> <p><input type="checkbox"/>机</p> <p><input type="checkbox"/>テーブルクロス</p> <p>③利用者服装</p> <p><input type="checkbox"/>上衣</p> <p><input type="checkbox"/>ズボン</p> <p><input type="checkbox"/>靴</p> <p>④介護者服装</p> <p><input type="checkbox"/>ポロシャツ</p> <p><input type="checkbox"/>ズボン</p> <p><input type="checkbox"/>靴（スニーカー）</p> <p>⑤登場人物</p> <p><input type="checkbox"/>利用者2人</p> <p><input type="checkbox"/>職員（2人、良い対応をする職員と悪い対応をする職員）</p>	

	<p>③-2 良い関わりの場面</p> <p>利：(テーブルの上にある花を直そうとして立ち上がる)</p> <p>職：「佐野さん、どうされましたか」 (穏やかに言いながら、近づき、バランスを崩した際に支えられる位置に移動する)</p> <p>利：(職員のほうへ視線を向けたあと、黙ったまま花瓶に近づき、花を直す)</p> <p>職：「お花が落ちていたのですね。気づいてくださり、ありがとうございます」</p> <p>利：(職員のほうを向き微笑む。車いすに戻り、座る)</p>	<p>シーン16-2</p> <p>松田先生監修</p> <p>利用者・佐野ゆき</p> <p>:</p> <p>介護職員2</p> <p>:</p>	<p>《必要物品》</p> <p>③-1と同じ</p> <p>介護職員は別の職員とする。</p>	
--	---	---	--	--

	利用者出演なし	その他（脳血管、レビー、前頭側頭……）	必要物品、撮影時のレイアウト	撮影、録音のポイント
生活支援技術 ④排泄の介護における感染症対策 出演者 職員：1名	④-1 悪い対応の場面 ○場面の説明：使用済みのおむつを処理する。 床に置いてあった使用済みのおむつを、手袋をつけず、まるめずに、ごみ袋の中にいれる。手洗いをせずに記録を書き始める。	<b>シーン17-1</b> <b>松田先生監修</b> <b>介護職員1：</b>	≪必要物品≫ ①必要物品 <input type="checkbox"/> おむつ（色付きの水等で使用済みであることをしめす） <input type="checkbox"/> ゴミ袋 <input type="checkbox"/> 排泄の記録用紙 <input type="checkbox"/> ボールペン  ②環境（ダイニング） <input type="checkbox"/> 居室？  ③利用者服装 なし  ④介護者服装 <input type="checkbox"/> ポロシャツ <input type="checkbox"/> ズボン <input type="checkbox"/> 靴（スニーカー）  ⑤登場人物 <input type="checkbox"/> 職員1名	

	<p>④-2          良い対応の場面          職員は手袋、ビニールのエプロンをつけておく。排泄物に異常がないか確認したあと、ビニール袋をかぶせた蓋つきのバケツに入れる。          場面を変え、手袋をはずしたあと手洗いをし、記録を書く。</p>	<p>シーン17-2          松田先生監修          介護職員2：</p>	<p>《必要物品》          ④-1と同じ  <input type="checkbox"/>手袋  <input type="checkbox"/>ビニールのエプロン  <input type="checkbox"/>ゴミ袋  <input type="checkbox"/>蓋つきバケツ  <input type="checkbox"/>石けん          介護職員は別の職員とする。</p>	<p>・洗面台が撮影できなければ、石けんをつけるところで映像を止めておく。</p>
--	---	--	---	---

シーン【1】～【9】

実習生が初めて利用者の部屋に入るときに感じる事・利用者の居室を実際に見て感じることを体験できる動画

気づき：自分の考えに偏ってしまう可能性が高いこと・客観的に捉えることの必要性・生活の中に入れていただく職種であること

	撮影イメージ	登場人物	必要物品、撮影時のレイアウト	撮影、録音のポイント
<p>シーン【1】 初めての入室を指示される場面</p>	<p>◎実習生が初めて利用者の居室に入る設定 ◎指導者から部屋に入っのコミュニケーションを指示された</p> <p>指導者：「(実習生1)さん、今日は利用者さんのお部屋に一人で入って、コミュニケーションをとしましょう」 実習生1：「はい！ 行ってきます」 指導者：「後で、利用者さんの様子を教えてくださいね」</p>	<p>実習指導者 実習生1</p>	<p>廊下などで、居室に入る前のやりとりを撮影</p>	<p>シーン【1】～【4】 指導者から部屋に入っのコミュニケーションを指示された ↓ ノックして入室 ↓ 目線</p>
<p>シーン【2】 入室を指示されたことに対する不安な場面</p>	<p>実習生1「どんな人だろう。どんな人なのか聞いておけばよかった……」</p>	<p>実習生1</p>		<p>実習生1の疑問等をテロップで表示、もしくは後で撮影</p>

シーン18-1  
松山先生監修  
実習指導者：  
利用者：  
実習生1：

<p>シーン【3】 ノックして入室する場面</p>	<p>ノックして入室 入室する実習生を撮る 実習生1：入室した後、部屋の中を見渡す</p>	<p>実習生1 利用者</p>	<p><u>部屋の様子</u> ・利用者の机の上にお菓子のごみが散らかっている ・いろいろな物が散乱している</p>	
<p>シーン【4】</p>	<p>ノックして入室 部屋を見渡した実習生1の動きに合わせて、部屋の中を実習生1の目線で撮る  利用者：実習生への対応に慣れている元気でした利用者 「こんにちは。そこに座って。お話ししましょうか」</p>		<p>撮影時にあるもので対応 ・リモコン ・新聞 ・タオル ・雑誌 ・お菓子 ・飲み物 ・ルーペ ・ゴミ</p>	<p>実習生1の目線に入るものを撮影</p>
<p>シーン【5】 居室内での実習生1の気持ち</p>	<p>実習生1：「しっかりしていそうな利用者さんなのに、なんでこんなに散らかってるのか……。施設の人達もこの散乱しているゴミをなんとも思わないのかな」</p>	<p>実習生1</p>		

<p>シーン【6】</p>	<p>部屋を出てきて、廊下で遭遇した他の実習生に利用者の部屋の様子を伝える</p> <p>実習生1：「〇階の利用者さんのお部屋入ったんだよ～。元気なおばあさんだったんだけどさあ、しっかりしてるのにお部屋がぐちゃぐちゃでビックリしたよ。ここの職員さんたち、気にならないのかな。見たらビックリすると思うよ」</p> <p>実習生2：「そんなに散らかってたんだ！ まだ利用者さんの部屋に入っていないからわかんないや。でも、施設なのに汚いなんてやばくない？」</p>	<p>実習生×3 実習生1 実習生2 実習生3</p>	<p>シーン18-2 松山先生監修 実習生1： 実習生2： 実習生3：</p>	<p>実習生が疑問を一生懸命伝える様子や表情を撮影</p>
<p>シーン【7】 実習指導者からの指導の場面</p>	<p>実習生の疑問に対して、指導者と話し合う機会を撮影</p> <p>指導者：「利用者さんのお部屋に行って、ご様子はいかがでしたか？」</p> <p>実習生1：「しっかりしている利用者さんで、たくさんお話ができました。話しているところを見ると、認知症もなさそうでした。事前に注意点や情報を聞けばよかったかなと思いました」</p> <p>指導者：「そうですね。事前の情報があるかないかでコミュニケーションの方法も変わるし、内容も</p>	<p>指導者 実習生1</p>	<p>会議室のような場所で実習の指導を受ける</p> <p>シーン18-3 松山先生監修 実習指導者： 実習生1：</p>	

	<p>変わりますからね」</p> <p>実習生1：「あの……。一つ気になったことがあって……。お部屋、すごく散らかってて、ゴミをそのまま置いてあるし、あんなに散らかったままでいいんですか」</p> <p>指導者：「確かに散らかってたかもしれないけど、不衛生でしたか？ 職員は毎日お部屋に入りますけど、そのままにしてるんです。なぜだと思えますか」</p>			
<p>シーン【8】 (シーン【7】の続き)</p>	<p>指導者：「利用者さんは、しっかりされてるようにはみえますが、最近、物忘れがひどくなってきました。ご本人が一番気にされてます。その為に、お部屋の中で様々な工夫をされています。利用者さんの工夫には、どのようなことがあると思いますか」</p> <p>実習生1：「あの散らかった部屋に工夫があるんですか」</p> <p>指導者：「利用者さんが望まれていることも忘れてしまったら、ご希望通りになりません。その方にとって大事な事は忘れないように、ご本人ができることを一緒に考えて実行しています。」</p>	<p>指導者 実習生1</p>		

	<p>忘れたくないことを忘れて寂しい思いをされないように、工夫しているんですよ」</p>			
<p>シーン【9】 (シーン【8】の続き)</p>	<p>居室にて撮影、答え合わせ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お菓子のゴミは、買い物を頼むときに活用するため、敢えて保管している。</li> <li>・新聞や折り込み広告を読むためのルーペは部屋にたくさん置きっぱなしにしておく。</li> <li>・ゴミを確認して、思い出せる能力があるため、ゴミ箱のゴミは、毎週〇曜日に捨てる決めてしている。</li> </ul> <p>撮影の状況に応じて利用者像を考え、利用者本人、もしくは、指導者と答え合わせをする。</p>	<p>指導者 実習生 1</p>	<p><u>部屋の様子</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の机の上にお菓子のごみが散らかっている</li> <li>・いろいろな物が散乱している</li> </ul> <p>撮影時にあるもので対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リモコン</li> <li>・新聞</li> <li>・タオル</li> <li>・雑誌</li> <li>・お菓子</li> <li>・飲み物</li> <li>・ルーペ</li> <li>・ゴミ</li> </ul>	<p>答えになる物をアップで撮影</p> <div style="border: 1px solid black; background-color: #FFD1E8; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>シーン18-4 松山先生監修 実習指導者： 利用者： 実習生1：</p> </div>

シーン【10】～【15】

介護過程の展開から訪問介護事業所の手順書まで・心身の状況に応じた介護とは

Cさん 身体障害に伴う事例 設定

64歳 男性 脳梗塞後遺症 片麻痺

介護老人保健施設から在宅復帰を目指している。

ケアプランの総合的な援助の方針は「ヘルパーさんに手伝ってもらいながら、自宅での生活を継続していく」。

	撮影イメージ	登場人物 その他(できたら撮影する場面)	必要物品、撮影時のレイアウト	撮影、録音のポイント
シーン【10】 挨拶とサービスの 内容	訪問からサービス開始までの様子 内容は 入浴・洗濯・トイレ	利用者 ヘルパー	椅子 リビングの様子	
シーン【11】 トイレ	自宅のトイレに慣れていない 体調が悪い が重なり、思うように立ち上がれないことに対する 支援	利用者 ヘルパー	トイレ 車いす 杖	原則と違うことをする場合、その部分をアップで撮る
シーン【12】	事務所に帰り、先輩に相談する	先輩ヘル	机	

先輩介護職との 振り返り	専門職との連携を提案される	パー ヘルパー	椅子 ファイル	
シーン【13】 専門職との関わり	理学療法士に相談する	先輩ヘル パー 理学療法 士	机 椅子 ファイル	シーン19-3 松山先生監修 先輩ヘルパー： 理学療法士：
シーン【14】 成功体験	本人がうまくできた例を提示	利用者 ヘルパー	トイレ 車いす 杖	シーン19-4 松山先生監修 利用者： ヘルパー：
シーン【15】 介護者への指導	家族に指導する	利用者 ヘルパー 家族	トイレ 車いす 杖	シーン19-5 松山先生監修 利用者： ヘルパー： 家族：

・追加シナリオ（令和5年1月21日）

スーパービジョン（あるいはカンファレンス）シナリオ

教員：棚橋（配役：高橋）、実習指導者：大清水（配役：志水）

実習生：木野（配役：モデルF）、実習生：増本（配役：モデルI）、実習生：大山（配役：モデルG）

別撮り 利用者：近藤（配役：石岡・難聴の方）

利用者：藤野（配役：モデルC・難聴の方・右側聞こえ辛い・左側なら意思疎通可）

利用者：洞口（配役：モデルD・認知症の方・サブちゃんというニックネーム）

木野	①はじめの挨拶 「お忙しい中スーパービジョン（あるいはカンファレンス）にご参加をいただきましてありがとうございます。今からスーパービジョン（あるいはカンファレンス）を行いたいと思います。参加者は、実習指導者の大清水さんと、養成校の棚橋先生と実習生木野、増本、大山です。 司会は木野、記録は増本が行います。予定時間は1時間です。よろしくお願ひ致します」
増本	「お願ひ致します」
大山	「お願ひ致します」
木野	「では増本さん、まず発表をして下さい」
	資料を渡す若しくは開始時に配布。
増本	「お手元にお配りした資料をご覧下さい。今週は多くのご利用者とコミュニケーションを図ることを目的としています。意思疎通ができる利用者とは話しますが、正直難聴の方との会話が難しく困っています。そこで今日のスーパービジョン（あるいはカンファレンス）での私からのディスカッションのテーマは「難聴の方に話す時どうすべきか」でまずは他の学生の意見を聞きたいと思ひます」
木野	「大清水さん一つ質問ですが、スーパービジョン（あるいはカンファレンス）の中では、ご利用者の個人名を提示してもいいですか？」
大清水	「個人情報保護には留意して貰ひたいですが、スーパービジョン（あるいはカンファレンス）の中では、参加者の皆さんがどの利用者の方かわかり辛いと思ひますので、苗字だけ呼ぶということをお認めたいと思ひます。棚橋先生、いいですか？」
棚橋	「実習指導者さんの許可が得られれば結構です。でも記録の中では、アルファベット表記にしてくださいね」
木野	「増本さんがコミュニケーションを取りにくい方はどなたですか？ どんなことで悩んでいるのですか？」
増本	「近藤さんです。男性利用者なので声が大きくてどうしても怖いんです」

大山	「そうですね。話しかけても、目をギロっとさせて、私も怒らせてしまうようで怖いのです」
木野	「私は、怖くないです。ニコニコ笑顔で近づけば、ニヤッと笑ってくれて愉快的な方だと思います」
大山	「それは木野さんが男性だからです。どうしてもあの年代の方は女性蔑視の方が多いから、女性の実習生は大変です」
増本	「それ程でもないと思うけどな～。私は難聴の近藤さんにどの程度の声がいいのかわからなくて、大きすぎて驚かせてしまったり、逆に小さい声で話しかけて嫌な思いをさせたりで、嫌われてしまった気がしています」
木野	「じゃあ大山さん、女性の利用者の藤野さんでしたっけ？ あの方も難聴ですよ」
大山	「藤野さんは右耳が悪いから、左側から話しかければいいって聞いて実践しています。あと、近くで手を振って注意を向けてもらってから話しかければ、殆ど聞こえるから、会話には困っていません」
木野	「そうですね、上手くいく時と上手くいかない時があり、困りますよね。実習指導者の大清水さん、アドバイスをお願い致します」
	<b>実習指導者・大清水さんからアドバイスを受ける。</b>
大清水	「増本さんが悩んでいるのは近藤さんですね。あの方は……。他にも……」 —— 「大山さんは藤野さんとは関わる事ができているのですね……」 ——
増本	「アドバイスをありがとうございます。近藤さんとお話しする時、やってみます」
大山	「アドバイスをありがとうございます。藤野さんには話せるのだから、近藤さんにもお話しするようチャレンジしてみます」
木野	「では次は大山さん発表してください」
	<b>資料を渡す、若しくは開始時に配布。</b>
大山	「では次に私が発表をします。お手元にお配りした資料をご覧ください。今週はベッドメイキングや車いす操作など生活支援技術をどんどんやることを目的としています。私は男子に比較して手先も器用だし、綺麗好きなので、ベッドメイキングや居室掃除で職員さんの役に立ちたいと思っています。でもどちらかと言うと、認知症の人が苦手だと気づきました。そこで、今日のスーパービジョン（あるいはカンファレンス）での私からのディスカッションのテーマは「認知症の方の同じ話をどうかわすか」でまずは他の学生の意見を聞きたいと思います」
増本	「私は職員さんの真似をして、とりあえず横に座ってニコニコしています」
大山	「それじゃあ、実習になっていないと思います。解決しないと、介護過程にならないし、介護福祉士が横に座るだけなんて実習の意味がないと思います」

木野	「同じ話をする利用者って洞口さんだよね。職員さんに洞口さんの好きなこととか、話す時の注意点を聞いたのかなあ」
大山	「聞けてない……。だって職員さんはここでコミュニケーション取っていてねって言われたただけだもん」(むくれる)
木野	「私は、コミュニケーション取っていてねって言われたら、あの方のお名前は何ですか？ 話す時に気をつける話題とかありますか？ ってストレートに聞くようにしている」
増本	「職員さんが洞口さんのことをサブちゃんって呼んでいたから、真似している」
大山	「棚橋先生の授業で利用者の呼び方の注意を受けたのに……。いつも増本さんはすぐふざける。洞口さんの考えていることがわからないし……。ベッドメイキングや居室の掃除ならだれよりも上手くやれるのに」
木野	「そうだね、大山さんは確かにベッドメイキングも上手い。記録も丁寧だし」 「実習させて頂いているフロアは、認知症の方も多いいフロア、確かに大変だね」 「大山さんの困り事です、実習指導者の大清水さん、アドバイスをお願い致します」
	<b>実習指導者・大清水さんからアドバイスを受ける。</b>
大清水	「大山さんが対応に困っているのは洞口さんですね。ご利用者の情報がわからない時の対応は難しく当たり前ですね。洞口さんが同じ話をするのは……」 —— 「増本さん、職員が親しみを込めてサブちゃんと呼ぶのは、本来望ましいことではないですから真似して欲しくありませんが、それ以外は洞口さんに親しみを持とうとしている姿勢はいいですね……」
大山	「ありがとうございます。洞口さんに少し関われそうな気がします。棚橋先生、何かアドバイスはございますか？」
木野	「では最後に私が発表します」
	<b>資料を渡す若しくは開始時に配布。</b>
木野	「お手元にお配りした資料をご覧ください。今週は介護過程の展開の対象者の選定を目的としています。本当は、洞口さんのような認知症の重度の方の課題解決の介護計画を立案したいけど、フロアの職員の方に許可を得られなくて、難聴などコミュニケーションや意思疎通に問題がある近藤さんや、藤野さんにしてはどうかとアドバイスを受けていて悩んでいます。そこで、今日のスーパービジョン(あるいはカンファレンス)での私からのディスカッションのテーマは「対象者選定の決め手」です。まずは他の学生の意見を聞きたいと思います」
増本	「そんなテーマでディスカッションにするって、木野さんの感覚は、やっぱり変だよ。好きか嫌いかでいいんじゃないかと思います。介護は感性が大事だから、フィーリング、フィーリング重視でいいと思います」

大山	「同じ実習グループとして成績が悪くなるような発言はやめてください」
木野	「大山さんはどうするの？」
大山	「近藤さんとか、藤野さんとか難聴の方を勧められて、戸惑っている。近藤さんは怖いけど、でも昨日から藤野さんには左側から話すことがわかったから、何とかなる。……でも正直決めきれていない。……木野さんのテーマに賛成している訳ではないけど、私も困っているからアドバイスを受けたいことかもしれない」
増本	「私は、阪神が好きだから野球好きの人にします。そうすれば介護計画は野球ゲーム、できない場合は野球雑誌を持ってきて、余暇支援ばっちり。誰からも文句なしの介護過程の展開ができます」
棚橋	「大清水さん少しいいですか？ 少し話が散乱していて、予定時間を過ぎそうだから、木野さんの問題について実習指導者のアドバイスを受けましょう」
大清水	「木野さんが、洞口さんを対象者にしたかったのに、フロアの職員の方に許可を得られなかったのは理由があると思います。例えば、実習生が多く関わり過ぎて不穏になるとか……」 —— 「近藤さんや、藤野さんなどコミュニケーションに障害のある方は、いつも自分の思いがなかなか伝えられなくて、生活のし辛さを感じてるので、木野さんがその思いを受け止めた立案をしてくださると……」 ——
木野	「参考になります。ありがとうございます。棚橋先生、何かアドバイスはございますか？」
棚橋	「まずは実習生が大変お世話になっております。難聴の方や認知症の方の対応に困っているようでしたが実習指導者さんのアドバイスを受け……」 ——
木野	「実習指導者の大清水さん、棚橋先生のアドバイスを受け、難聴の方や認知症の方との関わり方が少しわかったような気がします。また対象者選定も利用者さんのニーズに着目して行うようにしたいと思います。お忙しい中スーパービジョン（あるいはカンファレンス）にご参加をいただきましてありがとうございました。これでスーパービジョン（あるいはカンファレンス）を終わります」

介護実習 I

実習施設 特別養護老人ホーム△△△

2022/07/02

□□□□□□□□大学 社会福祉学部  
介護福祉学科 29SW131 増本 ○○

スーパービジョン（あるいはカンファレンス）資料

**【実習全体の目的】**

- ・学内で体系的に学んだ知識・技術を基に、自立支援の観点から高齢者・障がい者への個別ケア及びその家族への支援が実践できるための基礎的な能力を修得する。

**【実習の目標】**

- ・利用者の尊厳を意識した関わりができる。
- ・利用者・家族とのコミュニケーションを実践し、人間関係を形成することができる。

**【4日間で実践したこと】**

- ・コミュニケーション
- ・シーツ交換
- ・トイレ介助見学

**【実習における気づき】**

- ・難聴といってもタイプの違いがある。

**【疑問に感じていること】**

- ・実習中に質問が出来ているので特になし。

**【指導を受けたいこと】**

- ・難聴のある方とのコミュニケーション技法

**【今後の課題】**

- ・障害のある高齢者に対する疾患や障害の理解

介護実習 I

実習施設 特別養護老人ホーム△△△

2022/07/02

□□□□□□□□大学 社会福祉学部  
介護福祉学科 29SW133 木野 ○○

スーパービジョン（あるいはカンファレンス）資料

**【実習全体の目的】**

- ・利用者とのコミュニケーションを通して、利用者の生活全体に即した介護のニーズを把握する。

**【実習の目標】**

- ・利用者、家族とのコミュニケーションを図ることにより、利用者理解につなげることができる。
- ・介護福祉士としての職業倫理を身につける。
- ・対象者の選定をする。

**【4日間で実践したこと】**

- ・コミュニケーション
- ・散歩同行（車椅子利用者）
- ・レクリエーション参加

**【実習における気づき】**

- ・アルツハイマー型認知症の方が多い。

**【疑問に感じていること】**

- ・帰宅願望の理由。

**【指導を受けたいこと】**

- ・帰宅願望のある方にどのような言葉掛けを行うのか。

**【今後の課題】**

- ・認知症の原因となる疾患及び対応策の理解。

介護実習 I  
実習施設 特別養護老人ホーム△△△

**SV資料例 ③**

2022/07/02

□□□□□□□□大学 社会福祉学部  
介護福祉学科 29SW132 大山 ○○

スーパービジョン（あるいはカンファレンス）資料

**【実習全体の目的】**

- ・ 利用者の生活の場の見学を通して、生活全体に即した介護のニーズを把握する。

**【実習の目標】**

- ・ 利用者とのコミュニケーションを図り、施設理解につなげることができる。
- ・ 介護福祉士としてのキャリアモデルを描くことができる。

**【4日間で実践したこと】**

- ・ コミュニケーション
- ・ 申し送り参加
- ・ 配膳、下膳
- ・ レクリエーション参加

**【実習における気づき】**

- ・ 認知症の方の能力の高さ
- ・ 福祉用具の適用

**【疑問に感じていること】**

- ・ 介護拒否の理由

**【指導を受けたいこと】**

- ・ 物をあげたいとおっしゃる利用者への断り方

**【今後の課題】**

- ・ 認知症に関わることへの抵抗感の払拭

### 3 事例 シナリオ

介護職 三田さん（配役：松田）

実習生：木野（配役：モデル F） 実習生：増本（配役：モデル I） 実習生：大山（配役：モデル G）

**利用者：近藤 友蔵さん**（配役：石岡・失語症の方）

脳梗塞後遺症・右片麻痺・失語症

**利用者：藤野 さとさん**（配役：モデル C・難聴の方・右側聞こえ辛い・左側なら意思疎通可）

脳梗塞後遺症・左片麻痺・左空間無視・狭心症

**利用者：洞口 三郎さん**（配役：モデル D・認知症の方・サブちゃんというニックネーム）

アルツハイマー型認知症・不穏がある・野球は阪神ファン

#### スーパービジョンに繋げる部分

【洞口さん】新聞を見ている

増本	（洞口さん、野球ファンなんだ） 「洞口さん、阪神ファンなんですね」
洞口	「野球は阪神、私はバースが大好き。バースだろ、掛布だろ、岡田だろ」
増本	（え？ バースデー？ 洞口さん、アルツハイマーでご飯食べたことも覚えてないのに、昔の選手のことは覚えている。重度な認知症は面白いね～）

【藤野さん】ぬいぐるみを抱いている この藤野さんは難聴をイメージしてください。

大山	（右側から）「藤野さん、可愛いぬいぐるみですね」
藤野	（反応しない）
大山	「あ、反対だった。左側から話さなきゃいけなかったわ」 （左に回って）「藤野さん、こんにちは。可愛いぬいぐるみですね」
藤野	「可愛いでしょ？ 孫が東京の遊園地のお土産に買ってきてくれたのよ」
大山	「可愛いですね。私もテディベア大好きなんです」

【近藤さん】新聞を読んでいる。この近藤さんは難聴をイメージしてください。

木野	（近藤さんは難聴だったな） （大きな声で）「……近藤さん」
近藤	（驚く）

## ベッドセッティング

### 【睡眠のシーン①：近藤さんの場合】

近藤	(布団の中で寝ている)
三田	「近藤さん、発熱していたみたいですが、今は大丈夫ですか？ 調子いいなら左手でOKとかサインください」
近藤	(OK)
三田	「良かったです。何か困ったらナースコール押してくださいね」 「このあと、水分補給をしますね」

### 【睡眠のシーン②：藤野さんの場合】

藤野	(布団の中で寝ている)
三田	「藤野さん、起きてください。しっかり覚醒していますか？ 私が見えますか？」
藤野	「ああ見えるよ。もうトイレの時間なの？ 今は行きたくないわ」
三田	「そうなんですね。胸の苦しさもないです？」
藤野	「ああ大丈夫。いつもありがとうね」
三田	「良かったです。何か困ったらナースコール押してくださいね」

### 【睡眠のシーン③：洞口さんの場合】

洞口	(布団の上で座っている)
三田	「洞口さん、どうしましたか？」
洞口	「いやあ、バースがホームランを打ったもんで嬉しくてさ、寝れなくてさ」
三田	「そうなんですね、それは嬉しいですよ。明日の朝刊が楽しみです」
洞口	「そうそう。あんたはどこファンだ」
三田	「それは勿論洞口さんと一緒のタイガースですよ」
洞口	「じゃあ今度は六甲おろしを歌おうな」
三田	「じゃあ、バースの活躍が掲載されている新聞が届くまで寝てましょう」
洞口	(布団に入る)

## 学生：ベッド撤収／5号室でベッド畳む

## 入浴セット：シャワーチェア、シャワーヘッド、シャンプーボトル

【入浴のシーン①：近藤さんの場合】\*近藤さんはズボンをまくる

三田	「近藤さん、熱があるみたいですから、足だけ洗いませんか？ 洗うならOKと左手でサインを出してください」
近藤	(OK)
三田	「良かったです。シャワー38°Cなんですよ、私が確かめてみましたので大丈夫ですが、近藤さん左手を出して確かめてください」
近藤	(左手を差し出し、自分で足にシャワーをかける)
三田	「近藤さんは、自分でできることをしてくださるので助かります」

【入浴のシーン②：藤野さんの場合】\*藤野さんはズボンをまくる

藤野	「私、今日お風呂入れないなんて残念」
三田	「藤野さん、その代わり、足だけでも洗いませんか？」
藤野	「足だけじゃあ、身体はすっきりしないよ」
三田	「そうですね。胸の苦しさもないです？」
藤野	「胸が苦しいし、嫌になるよ」
三田	「そうですね。今日はシャワーで足を洗って、その後、膝の痛みのために少しバケツに足を入れてみませんか」 「シャワーの温度は 38°Cなんですよ、私が確かめてみましたので大丈夫ですが、藤野さん右手を出して確かめてください」
藤野	「大丈夫だね。左足をここに入れるのね。あら、温かいわ。膝にも良さそう」
三田	「足浴すると膝の痛みにも良いし、夜間もよく眠れますよ。身体はホットタオルで清拭してさっぱりしましょうね」

【入浴のシーン③：洞口さんの場合】\*入浴セットだけが置いてあり、車いすからそれを見る

洞口	「おいおい、ここはなんだ？ 俺は風呂には入らんぞ」
三田	「洞口さん、今は入りたくないんですね。わかりました、じゃあ夜に入ればいいですね」
洞口	「あんたは優しいね。無理やり風呂に入れようとする奴もおるで、おちおちしとれんけど。あんたは好きだな」

## 学生 入浴セット：撤収

## 排泄セット：ポータブルトイレ、ティッシュ

### 【排泄のシーン①：近藤さんの場合】

\*近藤さんはウォーカーケインで移動、ポータブルトイレを見せる

三田	「近藤さん、夜間、心配ならベッドの横にポータブルトイレ置いてみますか？」
近藤	(手でノーと合図する)
三田	「そうですか、迷惑かけるとか思わなくても大丈夫ですよ。今度、私が夜勤の時に、ベッドサイドに置いて試してみましょうね」
近藤	(うんうん)
三田	「近藤さんは、体調がいい時、いつも頑張って歩いて立派ですよ。今は、散歩の時、車いすを使っていますが、筋力がつけば近くの公園までぐらい歩いて行けそうですね」

### 【排泄のシーン②：藤野さんの場合】

\*藤野さんは車いすで移動、ポータブルトイレを見せる

藤野	「私、昼間はトイレでもいいけど、最近体調が悪くて……」
三田	「藤野さん、そうだったのですね。胸が苦しいですか？ 膝の調子が悪いのですか？」
藤野	「昼間はいいけど、夜中はトイレだと寒いし、膝が痛くて……」
三田	「夜勤の職員に、ベッドサイドに設置してもらいますね。何でも私に相談してくださいね」
藤野	「三田さんが毎日夜勤だといいなあ……」

### 【排泄のシーン③：洞口さんの場合】

\*洞口さんはポータブルトイレにぬいぐるみを隠す

洞口	「ここに隠れていれば大丈夫。出てきていいというまでは隠れているんだよ」
三田	「洞口さん、どうしたんですか？」 (娘達とかくれんぼしている) —— 「今夜はかくれんぼなんですね。洞口さんは優しいお父さんですよ」
洞口	「あんたはようわかつとる。私は阪神の選手の中でも、一番優しい選手だって有名なんだよ」
三田	「洞口さん、阪神の選手だったんですね。今度、サインくださいね」

## 学生 排泄セット：撤収

7. 成果物（ワークシート等）

ワークシート No.1 科目名 認知症の理解

<p>【事例の概要】</p> <p>森田 光弘さん（79歳、男性）、特別養護老人ホームに入所中。</p> <p>主疾患：脳血管性認知症</p> <p>症状他：元々は社会的で自治会長をしていたが、最近、BPSD（暴言・暴力）の出現が目立つようになってきた。</p> <p>シーン1</p> <p>映像の解説</p> <p>15時、リビングで男性利用者の森田さんが、車いすで右往左往している。そこへ、介護職員が忙しそうに通る。森田さんはその職員に向かい、「邪魔だ！ どけ！」等と怒鳴っている。今日森田さんを担当する介護職員は、そのような森田さんの暴言にうんざりしている様子を描いている。</p> <p>映像作成時のコンセプト</p> <p>森田さんが暴言を吐くのは何故なのか？ 介護職員の感情で利用者进行评估（評価的理解）してしまいがちであるが、そこに留まらず、専門職として利用者の言動に対する理由・原因をしっかりと分析し（分析的理解）、また、分析後は利用者の立場に立ち、共感すること（共感的理解）へと、3つのステップで展開させていくことが重要であることを理解する。また、これらのステップで展開させていくことで、介護職員の認識と対応が変化し、それは利用者の言動の変化に繋がっていくことを理解する。</p>	<div data-bbox="1094 226 1355 463" data-label="Image"></div> <p>映像番号： 暴言・暴力 シーン1 評価的理解</p>
<p>《シーン1を用いた授業の具体的な展開例①》</p> <p>BPSDに対する介護職員の感情を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・認知症利用者のBPSDが出現した際、介護職員はどのような感情を抱くのか、まずは正直な自分の感情について考える。</li><li>・介護職員の感情で目の前の利用者を「好き」「嫌い」「親しみやすい」「かわりにくい」等々評価する（評価的理解）傾向があることを理解する。</li></ul>	<p>アクティブラーニング素材としての活用例</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・事前課題や事後課題として映像のQRコードを授業前に提示。授業内でも繰り返し視聴しながら、グループワーク等を進める。</li></ul>
<p>《シーン1を用いた授業の具体的な展開例②》</p> <p>利用者との関係性や利用者の心身の状態について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・介護職員が自らの感情を抱いたまま利用者にかかわり続けていく場合、利用者との関係性はどのように変わっていくか、利用者の心身の状態はどのように変わっていくか、この2つの事柄について想定する。</li></ul>	

<p>《シーン2を用いた授業の具体的な展開例①》</p> <p>評価的理解→分析的理解へ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・森田さんが介護職員に対し暴言を吐く理由や原因には、どのようなことが考えられるか、グループで話し合う。</li> <li>・評価的理解を否定するのではなく、介護職員にも感情があることを理解した上で、そこに留まるのではなく、BPSDが出現する理由・原因について、専門職としてしっかり分析することを学ぶ。</li> </ul>	<div data-bbox="1082 181 1353 427" style="text-align: center;">  </div> <p>映像番号： 暴言・暴力 シーン2 分析的理解</p>
<p>《シーン3を用いた授業の具体的な展開例①》</p> <p>分析的理解→共感的理解へ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・森田さんが暴言を吐く理由がわかり、利用者の立場に立ち、利用者の思いに共感することの重要性を理解する。</li> <li>・BPSDの理由・原因についてしっかり分析をし、共感をしたことにより、適切な対応方法や介護方針が見つかることを学ぶ。対応方法の検討を先行させるのではなく、適切な分析が重要であることを理解する。</li> </ul>	<div data-bbox="1082 613 1353 860" style="text-align: center;">  </div> <p>映像番号： 暴言・暴力 シーン3 共感的理解</p>
<p>《シーン4を用いた授業の具体的な展開例①》</p> <p>利用者のBPSD軽減と心身の状態変化を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職員のかかわり方が変化したことで、森田さんの暴言がなくなり、笑顔が見られるようになった映像を通し、認知症の中核症状の軽減は難しいが、BPSDは介護職員の適切なかかわり方により軽減することを学ぶ。また、BPSDが軽減することにより、利用者の心身の状態変化に繋がることを理解する。</li> </ul>	<div data-bbox="1082 1046 1353 1292" style="text-align: center;">  </div> <p>映像番号： 暴言・暴力 シーン4 ステップ後の変化</p>
<p>■本事例からの学びと展開</p> <p>本事例は、「ひもときシート」の3ステップ（評価的理解→分析的理解→共感的理解）の理解を深めるものである。BPSD出現時は、対応方法の検討を先行させるのではなく、専門職としてその理由や原因についてしっかり分析する。介護職員の感情を否定するのではなく、評価的理解に留まらず、分析的理解から共感的理解へと3つのステップを経ていくことで利用者への理解を深める。認知症の人の行動から、言葉に出せないメッセージがあることに気づき、介護職員のかかわり方でBPSDが軽減することを理解する。</p> <p>■当該科目での別の用い方</p> <p>「認知症の人とのかかわり方」として、介護職員としての自己を振り返る。</p> <p>■違う科目での用い方</p> <p>介護過程、コミュニケーション技術、人間の理解等</p>	

<p>【事例の概要】</p> <p>亀山 とみ子さん（83歳、女性）、グループホームに入居中。          主疾患：アルツハイマー型認知症          症状他：認知症により、記憶障害や理解力・判断力の低下がみられる。排泄したばかりにもかかわらず、度々排泄の訴えがあり、その対応に介護職員が困っている。</p> <p><u>映像の解説</u></p> <p>認知症の女性利用者が頻繁に排泄を訴えている。少し前にトイレへ行ったばかりなのに、何度も介護職員にトイレに行きたいと訴えており、介護職員がうんざりしている様子を描いている。</p> <p><u>映像作成時のコンセプト</u></p> <p>認知症の女性利用者の訴えとして、よくある場面である。排泄を終えたばかりなのに度々訴えがある原因として、認知症の記憶障害により、排泄したことを忘れてしまうからだ判断されがちである。しかしながら、排泄の訴えには様々な理由や原因があり、それらをしっかり分析することが重要である。本映像では、排泄の訴えの理由や原因について分析し、その原因によって介護の方法も異なってくることを理解する。</p>	<div style="text-align: center;">  </div> <p>映像番号：          頻繁にトイレに行く          シーン 1 排泄の訴え</p>
<p>《シーン1を用いた授業の具体的な展開例》</p> <p><u>排泄の訴えに対する原因を考える。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>映像を通し、亀山さんが何故、度々トイレに行きたいと訴えるのか、その理由・原因について考える。</li> <li>個人ワーク、グループワークで検討した内容について発表し、自分とは異なる他者の発表から、多くの原因分析を学ぶ。</li> </ul>	<p>アクティブラーニング素材としての活用例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事前課題として、映像のQRコードを提示し、排泄の訴えに対する原因分析の課題を設ける等、活用する。</li> </ul>
<p>《シーン2～7を用いた授業の具体的な展開例①》</p> <p><u>様々な原因について理解する。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>シーン2～7までは、頻繁にトイレに行く原因の一例を示したものであり、必ずしもこの6つが正解ではない。学生から挙げた原因についても何故そのように考えたのか、その理由を発表してもらい、様々な原因があることを理解する。</li> </ul> <p>＜原因分析の一例映像＞</p> <p>シーン 2 認知症の進行によるため          シーン 3 失禁への不安によるため          シーン 4 生活リズムの乱れによるため</p>	<div style="text-align: center;">  </div> <p>映像番号：          シーン 2 認知症の進行</p>

シーン5 自律神経の低下によるため  
シーン6 膀胱炎の疑いによるため  
シーン7 興味・関心の薄れによるため

《シーン2～7を用いた授業の具体的な展開例②》

原因に応じた対応方法を考える。

- 分析した原因に対し、どのように対応することが望ましいか、適切な対応方法についてグループワーク等で検討する。
- 原因によって対応方法が異なるということを理解し、対応方法を考える前にしっかり分析をすることが重要であることを理解する。
- シーン2～7の原因に対し、ロールプレイングを通して適切な対応方法を学ぶ。



映像番号：  
シーン3 失禁への不安



映像番号：  
シーン4 生活リズムの乱れ



映像番号：  
シーン5 自律神経



映像番号：  
シーン6 膀胱炎の疑い



映像番号：  
シーン7 興味・関心の薄れ

■本事例からの学びと展開

本事例は、認知症の利用者が度々排泄の訴えをし、介護職員がその対応に困る事例である。認知症であることから、その原因として「記憶障害によりトイレに行ったことを忘れてしまう」と判断しがちであるが、原因は一人ひとり異なり、様々な原因があることへの理解を深める。また、原因分析後、原因に応じた適切な対応方法を考えると共に、利用者が納得できるような働きかけと対応力を身に付ける。

■当該科目での別の使い方

認知症の人とのかかわり方（話し方、説明の仕方、使用言語等を含む）の基本を学ぶ。

■違う科目での使い方

コミュニケーション技術、介護過程、総合演習等

<p>【事例の概要】</p> <p>上田 光子さん（85歳、女性）、在宅で生活している。          主疾患：アルツハイマー型認知症          症状他：若い頃は看護師として働いていたが、認知症が進行し、夜中の徘徊、昼夜逆転、過食、異食等を繰り返している。</p> <p><u>映像の解説</u></p> <p>認知症の母と同居し、自宅で介護する娘（明子さん）に対する相談援助の場面である。日中、訪問介護サービスを週3回受けているが、夜間の介護はすべて娘の明子さんが担っている。最近、明子さんの表情が暗く、疲れきっている様子で、介護職員（加藤さん）は明子さんを心配し、介護福祉士の役割の一つである家族への相談援助を行っている。</p> <p><u>映像作成時のコンセプト</u></p> <p>在宅介護においては、介護職員が自分よりも年上の家族に対し、相談援助を行う場面が多くある。しかしながら、相談援助とは具体的にどのようなことか、どのように行えばよいのか、の理解が難しい。本映像を通し、介護福祉士の役割の一つである、家族への支援を行うためには、どのような点に留意し、どのような方法で行えばよいのか、相談援助の方法について理解を深める。</p>	<p>アクティブラーニング素材としての活用例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題や事後課題として、映像のQRコードを提示し、課題を設ける。授業内でも繰り返し視聴し、グループワーク等を進める。</li> </ul>
<p>《シーン1を用いた授業の具体的な展開例①》</p> <p><u>介護を担う家族の気持ちを考える</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・徘徊、昼夜逆転、過食等の状況を想定する。</li> <li>・母の介護で疲れ切った娘の心身の状態について考える。</li> <li>・もし自分が娘の立場だったら、介護職員からどのような言葉を掛けてもらえれば心が軽くなるか、反対にどのような言葉を掛けられたら嫌な思いをするか、考える。</li> </ul>	<div data-bbox="1082 1272 1350 1518" data-label="Image"> </div> <p>映像番号：          相談援助</p>
<p>《シーン1を用いた授業の具体的な展開例②》</p> <p><u>ご家族へのねぎらい</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護で疲れきっている家族への言葉がけとして、まずは一生懸命介護を行っている状況に対し、「ねぎらいの言葉」を掛けることを理解する。</li> <li>・具体的にどのような言葉掛けが「ねぎらいの言葉」となるか、考える。</li> </ul>	<p>シーン1 利用者の娘との面談1          （ねぎらい）</p>

<p>《シーン 2 を用いた授業の具体的な展開例》</p> <p><b>家族の思いを傾聴する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 家族の気持ちを受容し、否定することなく、ただ傾聴することの重要性を理解する。</li> <li>• 介護の基本や理論を述べるのではなく、家族の思いに寄り添うことで、家族は心を開き、実際の困りごとを話して下さることを理解する。</li> </ul>	<div data-bbox="1086 170 1358 421" data-label="Image"> </div> <p>映像番号： 相談援助 シーン 2：利用者の娘との面談 2（傾聴）</p>
<p>《シーン 3 を用いた授業の具体的な展開例》</p> <p><b>困りごとへの助言</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 家族が実際に困っていることに対する、専門的立場からの助言が、家族にとって大きな支えになることを理解する。</li> <li>• 家族に対し助言する際は、家族が理解できるよう、専門用語を使わずに助言することを理解する（本映像では「昼夜逆転」の言葉を敢えて使い、わかりやすい表現にかえ、説明している）。</li> <li>• 本事例のロールプレイングを行い、理解を深める。</li> </ul>	<div data-bbox="1086 696 1358 947" data-label="Image"> </div> <p>映像番号： 相談援助 シーン 3：利用者の娘との面談 3（助言）</p>
<p>■本事例からの学びと展開</p> <p>本事例は、家族に対する相談援助の知識と技術を習得するものである。家族への相談援助は介護福祉士の役割の一つであることを理解し、相談援助の基本的な流れや方法について理解を深める。介護を担う家族の気持ちに寄り添い、ねぎらい、傾聴、助言といった流れを経ることにより、家族との信頼関係も深まり、利用者に対する支援がより良いものに繋がることを理解する。</p> <p>本事例は、訪問介護事業所に勤務する介護職員の対応として例示したものであるが、デイサービスやショートステイの職員として送迎時に家族へ助言する場面なども想定し、ロールプレイング等の展開を図る。</p> <p>■当該科目での別の用い方</p> <p>徘徊や昼夜逆転以外のBPSD出現時に対する助言内容について考える。</p> <p>■違う科目での用い方</p> <p>コミュニケーション技術、総合演習、介護の基本等</p>	

<p>【事例の概要】 特別養護老人ホームに入居している佐藤さん（90 歳、男性）。朝食の時間であり、リビングの自席にいる。</p> <p><u>シーン1</u> 映像の解説 朝食前、さまざまな音がする環境の中で、声をかけられている。</p> <p><u>シーン2</u> 映像の解説 朝食前、静かな環境の中で、声をかけられている。</p> <p>映像作成時のコンセプト 佐藤さんを取り巻く環境への配慮に注意をして視聴をし、気づきを促す動画。</p>	<div style="text-align: center;">  </div> <p>配膳場面シーン 1</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>配膳場面シーン 2</p>
<p>≪授業の具体的な展開例≫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シーン 1 での佐藤さんの身体的状況を考える。また、「なんだよ」と言った理由を考える。</li> <li>・シーン 2 での佐藤さんの身体的状況を考える。</li> <li>・シーン 1 と 2 の違いは何かを考える。</li> </ul> <p>加齢による身体的変化を踏まえ、その影響として考えられることは何かグループワークを行う。環境の違いが、利用者にとどのような影響を与えるかを考える。</p>	<p>アクティブラーニング素材としての活用例</p>
<p>≪授業の具体的な展開例≫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シーン 1 での佐藤さんの世界を知る。</li> <li>・佐藤さんの行動について考える。</li> </ul>	<p>アクティブラーニング素材としての活用例</p>
<p>シーン 1、シーン 2 を用いた展開例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐藤さんについての支援方法を考える。</li> <li>・違う科目での用い方 「認知症の理解」「発達と老化の理解」等</li> </ul>	

<p>【事例の概要】                  実習生と担当利用者との会話風景。テーブルには担当利用者ともう1人利用者がいる。</p> <p><u>シーン1</u>                  映像の解説                  学生自身の情報収集を主とした会話風景。</p> <p><u>シーン2</u>                  映像の解説                  全体との会話を楽しもうとする学生の会話風景。</p> <p><u>映像作成時のコンセプト</u>                  利用者との相互作用が生じるコミュニケーションの取り方や、コミュニケーションの基本的姿勢について学ぶ。</p>	<div style="text-align: center;">  </div> <p>学生コミュニケーション①</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>学生コミュニケーション②</p>
<p>≪授業の具体的な展開例≫</p> <p><u>シーン1</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 学生の行動、目線、応答・対応の仕方について話し合う。</li> <li>• 利用者は何故そう思ったのかを考える。</li> </ul> <p><u>シーン2</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 学生の行動、目線、応答・対応の仕方について話し合う。</li> <li>• コミュニケーション技術の振り返りを行う。</li> </ul>	<p>アクティブラーニング素材としての活用例</p>
<p>シーン1、シーン2を用いた展開例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 違う科目での用い方                      「コミュニケーション技術」でのコミュニケーション技法について、利用者の感情についてなど。</li> </ul>	

<p>【事例の概要】</p> <p>武田とよさん（85 歳、女性）。特別養護老人ホーム（ユニット型）に入居中。</p> <p>普段から、言葉を上手く発せられない。下肢筋力が低下しており、歩行可能時は手引き歩行、ふらつき等がみられる時は車椅子使用と個別援助計画に明記されている。</p> <p><b>シーン1</b></p> <p><u>映像の解説</u></p> <p>就寝前、リビングルームで一人で椅子に座っている。テーブルに手をつき、ゆっくり立ち上がり横にずれるが、そのまま転倒してしまう。</p> <p><u>映像作成時のコンセプト</u></p> <p>普段の武田さんの身体状況から、近くにいる介護職員は何を行うかを考える。</p>	<div style="text-align: center;">  </div> <p>不適切な介護シーン 1</p>
<p>≪授業の具体的な展開例≫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 下肢筋力が低下している武田さんが立ち上がる際、介護職員は何をする必要があるかを考える。</li> </ul>	<p>アクティブラーニング素材としての活用例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 事前課題や事後課題として映像のQRコードを授業前に提示</li> </ul>
<p><b>シーン2</b></p> <p><u>映像の解説</u></p> <p>転倒した武田さんが立ち上がろうとしており、介護職員は武田さんのズボンのベルト部分を掴み立ち上がりの介助をしている。</p> <p><u>映像作成時のコンセプト</u></p> <p>転倒した方に対してまず何をするのか、また、床からの立ち上がりについての介助方法について考える。</p>	<div style="text-align: center;">  </div> <p>不適切な介護シーン 2</p>
<p>≪授業の具体的な展開例≫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 転倒後の対応としてまず何を行うのか（痛みの確認やバイタル測定）。</li> <li>• 床からの立ち上がりについて、どのような介助方法があるかを考える。</li> </ul>	<p>アクティブラーニング素材としての活用例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 事前課題や事後課題として映像のQRコードを授業前に提示</li> </ul>
<p><b>シーン3</b></p> <p><u>映像の解説</u></p> <p>立ち上がり、右手はテーブル、左手は介護職員が支えているがふらつきがみられるまま、歩行介助を行っている。また、介護職員は「早く」と声をかけている。</p> <p><u>映像作成時のコンセプト</u></p> <p>ふらつきがみられるが、職員が左手を引っ張るように介助をしている。</p>	<div style="text-align: center;">  </div> <p>不適切な介護シーン 3</p>

<p>《授業の具体的な展開例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「早く」という声掛けについて考える。</li> <li>・ふらつきがある場合、どうすることとなっているか振り返る。</li> </ul>	<p>アクティブラーニング素材としての活用例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題や事後課題として映像のQRコードを授業前に提示</li> </ul>
<p><b>シーン4</b></p> <p><u>映像の解説</u></p> <p>テーブルの端のため、武田さんは右手で支える場所が無くなる状況。介護職員は左手のみの支えでそのまま進み、右手側の支えが無くなった武田さんは再度転倒する。介護職員は「武田さん嫌なんだよ」と言い立ち去る。</p> <p><u>映像作成時のコンセプト</u></p> <p>武田さんの歩行の状態を把握できているのか。利用者に対しての声の掛け方について考える。</p>	<div data-bbox="1114 365 1362 611" data-label="Image"> </div> <p>不適切な介護シーン4</p>
<p>《授業の具体的な展開例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2回目の転倒は何故起きたのかを考える。</li> <li>・「武田さん嫌なんだよ」という言葉について考える。</li> </ul>	<p>アクティブラーニング素材としての活用例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題や事後課題として映像のQRコードを授業前に提示</li> </ul>
<p>シーン1～4を通して、武田さんの気持ちを考える。また、介護職員の行動についても、介護方法、環境など、さまざまな視点から振り返ってみる。</p>	
<p><b>シーン5</b></p> <p><u>映像の解説</u></p> <p>日中の武田さんと介護職員との様子。他者の目線があることで介護職員はどのように変わったのか。歩行できない武田さんに対して、他の職員が車椅子を用意し、座っていただく。</p> <p><u>映像作成時のコンセプト</u></p> <p>誰かに見られることで、介護職員の態度がどう変わったのか。個別援助計画が理解できていない介護職員。</p>	<div data-bbox="1114 1093 1362 1339" data-label="Image"> </div> <p>不適切な介護シーン5</p>
<p>《授業の具体的な展開例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何がどう不適切なのかを考える。</li> <li>・個別援助計画の意味について考える。</li> </ul>	<p>アクティブラーニング素材としての活用例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題や事後課題として映像のQRコードを授業前に提示</li> </ul>
<p><b>展開例</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・違う科目での用い方</li> </ul> <p>「介護の基本」の中で、介護福祉士の倫理観やリスクマネジメント、多職種連携についてなど。</p> <p>「生活支援技術」の中で、立ち上がりや移動の方法など。</p>	

<p>【事例の概要】                  新井茂さん（74 歳、男性）。右片麻痺がある。                  デイサービスに通っており、帰りの送迎バスに乗るために立ち上がりから歩行の介助を行う。</p> <p>シーン1（悪い例）  <u>映像の解説</u>                  介護職員のペースで介助を行う。</p> <p>シーン2（良い例）  <u>映像の解説</u>                  介護職員は新井さんに介助の確認をしながら行う。  <u>映像作成時のコンセプト</u>                  過介護にならないよう、本人の能力を理解し、本人が動き出しやすいような声掛けについて考えられるようになる。</p>	<div style="text-align: center;">  </div> <p>待つ介護                  （悪い例）</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>待つ介護                  （良い例）</p>
<p>≪授業の具体的な展開例≫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シーン1 とシーン2 を比べて、新井さんの気持ちの違いについて考える。</li> <li>・自分で考え、行動する意味について考える。</li> <li>・自立支援について振り返る。</li> </ul>	<p>アクティブラーニング素材としての活用例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題や事後課題として映像のQRコードを授業前に提示</li> </ul>
<p>展開例</p>	

<p>カンファレンスの進め方について</p> <p>映像作成時のコンセプト</p> <p>カンファレンスの進め方について理解する。</p>	<div style="text-align: center;">  </div> <p>カンファレンス</p>
<p>《授業の具体的な展開例》</p> <p>それぞれの学生の視点がどのようなものだったか振り返る。それを踏まえ「介護実習」「カンファレンス」「ディスカッション」の意義について考える。</p>	<p>アクティブラーニング素材としての活用例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題や事後課題として映像のQRコードを授業前に提示</li> </ul>
<p>展開例</p>	

※ワークシート No.8とワークシート No.9の動画は、冒頭と末尾で「カンファレンス」と「スーパービジョン」の違いがありますが、その部分以外は同じものです。

<p>スーパービジョンの進め方について</p> <p>映像作成時のコンセプト</p> <p>スーパービジョンの進め方について理解する。</p>	<div data-bbox="1114 219 1362 465" data-label="Image"> </div> <p>スーパービジョン</p>
<p>《授業の具体的な展開例》</p> <p>それぞれの学生の視点がどのようなものだったか振り返る。それを踏まえ「介護実習」「スーパービジョン」「ディスカッション」の意義について考える。</p>	<p>アクティブラーニング素材としての活用例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題や事後課題として映像のQRコードを授業前に提示</li> </ul>
<p>展開例</p>	

※ワークシート No.8とワークシート No.9の動画は、冒頭と末尾で「カンファレンス」と「スーパービジョン」の違いがありますが、その部分以外は同じものです。

<p>【事例の概要】</p> <p>岡本幸太郎さん（72歳、男性）介護老人保健施設入所中          主疾患：脳梗塞          症状 他：左片麻痺がある。</p>	
<p>シーン1</p> <p>映像の解説          介護老人保健施設に入所したばかりの岡本さんが相談員と入所時面接をしている。</p> <p>映像作成時のコンセプト          岡本さんは左片麻痺があるが、右手を使ってお茶を飲むことができる。岡本さんの残存機能に気づかせる。</p>	<p>映像番号 〇①</p> <p>岡本さんと相談員のシーン（入所時の面接）</p>
<p>《シーン1を用いた授業の具体的な展開例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岡本さんの現在の希望は何かを考える。</li> <li>・岡本さんができることをあげる。</li> <li>・当該科目のねらいや当該授業の到達目標への落とし込み。</li> </ul>	<p>アクティブラーニング素材としての活用例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題や事後課題として映像のQRコードを授業前に提示</li> </ul>
<p>シーン2</p> <p>映像の解説          職員が岡本さんの残存機能を把握しておらず、全介助で上着を着せている。</p> <p>映像作成時のコンセプト          シーン1にて岡本さんのできることをあげており、岡本さんの残存機能が活用されていないことや脱健着患が守られていないことに気づかせる。</p>	 <p>映像番号 〇②</p> <p>岡本さんのシーン2          （悪い例）</p>
<p>《シーン2を用いた授業の具体的な展開例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岡本さんの希望や残存機能を活用した介護方法を考える。</li> <li>・岡本さんの気持ちを考える。</li> <li>・脱健着患や残存機能の活用について確認する。</li> <li>・当該科目のねらいや当該授業の到達目標への落とし込み。</li> </ul>	<p>アクティブラーニング素材としての活用例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題や事後課題として映像のQRコードを授業前に提示</li> </ul>
<p>シーン3</p> <p>映像の解説          職員が岡本さんの残存機能を活用し、脱健着患にならって上着を着る介助をしている。</p> <p>映像作成時のコンセプト          シーン2での適切な介護の方法を示す。</p>	 <p>映像番号 〇③</p> <p>岡本さんのシーン3          （良い例）</p>

<p>《シーン3を用いた授業の具体的な展開例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シーン2であげた方法の解説に用いる。</li> <li>・脱健着患や残存機能の活用について確認する。</li> <li>・当該科目のねらいや当該授業の到達目標への落とし込み。</li> </ul>	<p>アクティブラーニング素材としての活用例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題や事後課題として映像のQRコードを授業前に提示</li> </ul>
<p>映像番号〇①、映像番号〇②、映像番号〇③を用いた展開例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当該科目での別の使い方 シーン2とシーン3を逆に見せ、何が良かったのかを検討する。</li> <li>・違う科目での使い方 「介護過程」の中での、利用者の思いと具体的な介護方法との結びつき等。</li> </ul>	

<p>【事例の概要】</p> <p>小川清子さん（75歳、女性）特別養護老人ホーム入所中          主疾患：糖尿病、糖尿病性網膜症          症状 他：視覚障害</p>	<div style="text-align: center;">  </div> <p>映像番号 〇①          小川さんのシーン          （リビングでの独り言）</p>
<p>シーン1</p> <p>映像の解説          一人で折り紙の鶴を折っている。視覚障害があり、折り紙が見えないため、表裏が逆の状態で作られている鶴があるが、上肢には問題がない。</p> <p>映像作成時のコンセプト          小川さんは視覚障害があるが、一人で折り紙ができる。小川さんの残存機能に気づかせる。</p>	
<p>《シーン1を用いた授業の具体的な展開例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小川さんの現在の希望は何かを考える。</li> <li>・小川さんができることをあげる。</li> <li>・当該科目のねらいや当該授業の到達目標への落とし込み。</li> </ul>	<p>アクティブラーニング素材としての活用例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題や事後課題として映像のQRコードを授業前に提示</li> </ul>
<p>シーン2</p> <p>映像の解説          職員が小川さんの残存機能を把握しておらず、全介助で食事介護をしている。</p> <p>映像作成時のコンセプト          シーン1にて小川さんのできることをあげており、小川さんの残存機能が活用されていないことや本人の思いがくみ取れていないことに気づかせる。</p>	<div style="text-align: center;">  </div> <p>映像番号 〇②          小川さんのシーン2（悪い例）</p>
<p>《シーン2を用いた授業の具体的な展開例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小川さんの希望や残存機能を活用した介護方法を考える。</li> <li>・小川さんの気持ちを考える。</li> <li>・視覚障害のある人の食事支援の方法について確認する。</li> <li>・当該科目のねらいや当該授業の到達目標への落とし込み。</li> </ul>	
<p>シーン3</p> <p>映像の解説          職員が小川さんの思いをくみ取り、残存機能を活用し、食事の支援をしている。</p> <p>映像作成時のコンセプト          シーン2での適切な介護の方法を示す。</p>	<div style="text-align: center;">  </div> <p>映像番号 〇③          小川さんのシーン3（良い例）</p>

<p>《シーン3を用いた授業の具体的な展開例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シーン2であげた方法の解説に用いる。</li> <li>・視覚障害のある人の食事支援の方法について確認する。</li> <li>・当該科目のねらいや当該授業の到達目標への落とし込み。</li> </ul>	<p>アクティブラーニング素材としての活用例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題や事後課題として映像のQRコードを授業前に提示</li> </ul>
<p>映像番号〇①、映像番号〇②、映像番号〇③を用いた展開例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当該科目での別の使い方 シーン2とシーン3を逆に見せ、何が良かったのかを検討する。</li> <li>・違う科目での使い方 「介護過程」の中での、利用者の思いと具体的な介護方法との結びつき等。</li> </ul>	

<p>【事例の概要】</p> <p>佐野ゆきさん（85歳、女性）特別養護老人ホーム入所中          主疾患：アルツハイマー型認知症          症状 他：下肢筋力低下により立位不安定、記憶障害</p>	
<p>シーン1</p> <p>映像の解説          転倒リスクのある利用者がテーブルに置いてあるボトルを直そうと立ち上がるが、職員にとめられる。</p> <p>映像作成時のコンセプト          言葉でも利用者の行動を制限する、尊厳を傷つけることにつながる。</p>	<p>映像番号 S①          スピーチロック          （悪いかかわり）</p>
<p>《シーン1を用いた授業の具体的な展開例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の不適切なかかわりをあげる。</li> <li>・佐野さんが立ち上がろうとした行動の意図を考える。</li> <li>・当該科目のねらいや当該授業の到達目標への落とし込み。</li> </ul>	<p>アクティブラーニング素材としての活用例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題や事後課題として映像のQRコードを授業前に提示</li> </ul>
<p>シーン2</p> <p>映像の解説          シーン1での良いかかわりの例。</p> <p>映像作成時のコンセプト          シーン1での適切なかかわりを示す。</p>	 <p>映像番号 S②          スピーチロック          （良いかかわり）</p>
<p>《シーン2を用いた授業の具体的な展開例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シーン1での適切なかかわりの解説に用いる。</li> <li>・転倒リスクのある利用者への対応について考える。</li> <li>・介護者の決めつけは、利用者の尊厳を傷つけることにつながる危険があることに気づかせる。</li> <li>・当該科目のねらいや当該授業の到達目標への落とし込み。</li> </ul>	<p>アクティブラーニング素材としての活用例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題や事後課題として映像のQRコードを授業前に提示</li> </ul>
<p>映像番号S①、映像番号S②を用いた展開例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当該科目での別の使い方              シーン1とシーン2を逆に見せ、何が良かったのかを検討する。</li> <li>・違う科目での使い方              「介護過程」の中での、利用者の思いと具体的な介護方法との結びつき等。</li> </ul>	

<p>【事例の概要】 感染症予防の具体的な方法について、おむつの処理によって示す。</p>	<div style="text-align: center;">  </div> <p>映像番号 K① 感染症予防 (悪い対応)</p>
<p>シーン1 映像の解説 おむつ交換の後のおむつの処理について、感染予防対策ができていない方法を示す。 映像作成時のコンセプト 具体的な場面を用いて、感染予防対策をどのように行うかを確認する。</p>	
<p>《シーン1を用いた授業の具体的な展開例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染予防対策ができていない点をあげる。</li> <li>・感染予防対策ができていないことで、どのようなリスクがあるか考える。</li> <li>・当該科目のねらいや当該授業の到達目標への落とし込み。</li> </ul>	<p>アクティブラーニング素材としての活用例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題や事後課題として映像のQRコードを授業前に提示</li> </ul>
<p>シーン2 映像の解説 シーン1での適切な処理の方法。 映像作成時のコンセプト シーン1での適切な方法を示す。</p>	<div style="text-align: center;">  </div> <p>映像番号 K② 感染症予防 (良い対応)</p>
<p>《シーン2を用いた授業の具体的な展開例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シーン1の適切な方法の解説に用いる。</li> <li>・当該科目のねらいや当該授業の到達目標への落とし込み。</li> </ul>	
<p>映像番号K①、映像番号K②を用いた展開例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当該科目での別の使い方 シーン1とシーン2を逆に見せ、何が良かったのかを検討する。</li> <li>・違う科目での使い方 「介護総合演習」の中での、実習前の感染予防対策の確認等。</li> </ul>	

<p>【事例の概要】 山本さん（64歳、男性）介護サービス利用中 主疾患：脳梗塞 症状 他：介護老人保健施設から在宅復帰</p> <p>シーン1</p> <p>映像の解説 自宅での生活に向けて、サービス担当者会議の開催。 開始の挨拶の場面。</p> <p>映像作成時のコンセプト サービス担当者会議の様子を知る。</p>	 <p>映像番号 Y① サービス担当者会議 （開始の挨拶） 0:00～0:21</p>
<p>《シーン1 を用いた授業の具体的な展開例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ サービス担当者会議の意義・目的について確認する。</li> <li>・ 担当者会議に参加するために必要な準備について検討する。</li> <li>・ 生活支援の幅の広さや関連職種との出会いについて知る。</li> </ul>	<p>アクティブラーニング素材としての活用例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前課題や事後課題として映像のQRコードを授業前に提示</li> </ul>
<p>シーン2</p> <p>映像の解説 自宅での生活に向けて、サービス担当者会議の開催。 専門職の自己紹介とそれぞれの気持ち。</p> <p>映像作成時のコンセプト 利用者を支えるネットワークの一員として、参加する目的を理解できる。</p>	 <p>映像番号 Y② サービス担当者会議 （自己紹介） 0:22～1:51</p>
<p>《シーン2 を用いた授業の具体的な展開例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他職種の専門性やそれぞれの役割について考える。</li> <li>・ 他科目で修得した知識の活用方法を考える。</li> </ul>	<p>アクティブラーニング素材としての活用例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前課題や事後課題として映像のQRコードを授業前に提示</li> </ul>
<p>シーン3</p> <p>映像の解説 自宅での生活に向けて、サービス担当者会議の開催。 利用者と家族の気持ち。</p> <p>映像作成時のコンセプト 利用者を支えるネットワークの一員として、参加する目的を理解できる。</p>	 <p>映像番号 Y③ サービス担当者会議 （利用者・家族の気持ち） 1:52～3:06</p>

<p>《シーン3を用いた授業の具体的な展開例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の気持ちについて確認する。</li> <li>・自宅での生活を予測してみる。</li> </ul>	<p>アクティブラーニング素材としての活用例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題や事後課題として映像のQRコードを授業前に提示</li> </ul>
<p><b>シーン④</b></p> <p><u>映像の解説</u></p> <p>自宅での生活に向けて、サービス担当者会議の開催。 検討内容の説明。</p> <p><u>映像作成時のコンセプト</u></p> <p>検討内容の説明をうけて、参加者に必要な視点や確認事項について考える。</p>	<div data-bbox="1086 360 1362 607" data-label="Image"> </div> <p>映像番号 Y④ サービス担当者会議 (検討内容について) 3:07~4:20</p>
<p>《シーン4を用いた授業の具体的な展開例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他職種に確認する事項を検討してみる。</li> <li>・多職種協働の必要性、重要性について考える。</li> <li>・地域で暮らす利用者とその家族を支えるネットワークについて。</li> </ul>	<p>アクティブラーニング素材としての活用例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題や事後課題として映像のQRコードを授業前に提示</li> </ul>
<p>Y①～④を用いた展開例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当該科目での別の使い方 実際に参加した場合を想定して、ロールプレイングを行う。 施設サービスの職員として参加した場合と居宅サービスの介護福祉士として参加した場合の違いを考えてみる。</li> <li>・違う科目での使い方 「社会の理解」サービス担当者会議の制度上の位置づけ 「コミュニケーション技術」チームのコミュニケーション・家族とのコミュニケーション 「介護の基本」介護福祉士の役割・多職種連携、協働の実際 「介護過程」介護過程とケアマネジメントの関係性</li> </ul>	

<p>【事例の概要】</p> <p>松井さん（76歳、女性）有料老人ホーム入居中</p> <p>主疾患：糖尿病</p> <p>症状 他：物忘れが多くなってきていることを自覚している</p>	
<p>シーン1</p> <p>映像の解説</p> <p>施設実習の初日、初めて一人で利用者の部屋に入った場面。</p> <p>映像作成時のコンセプト</p> <p>実習生の視線で見た物を撮影し、利用者の部屋に初めて入る場面を動画を通して体感してみる。</p>	<p>映像番号 Z①</p> <p>初めての入室</p> <p>（居室に入ってコミュニケーション）</p>
<p>《シーン1を用いた授業の具体的な展開例》</p> <p>初めて部屋に入って、実習生として見た物から何を感じるのかを考える。</p> <p>入室前の準備に必要なことを検討してみる。</p>	<p>アクティブラーニング素材としての活用例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事前課題や事後課題として映像のQRコードを授業前に提示</li> </ul>
<p>シーン2</p> <p>映像の解説</p> <p>実習生の気づき。</p> <p>施設の廊下で遭遇した実習生同士の会話。</p> <p>映像作成時のコンセプト</p> <p>シーン1の実習生が、施設の廊下で友達に会い、松井さんの部屋に入った体験と、思ったことを話している。</p> <p>シーン1とシーン2を通して、実習生として、良い点や改善したほうがよさそうな点を挙げてみる。</p>	
<p>《シーン2を用いた授業の具体的な展開例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実習生が疑問に思ったことに、どのように対処したらよいかを検討する。</li> <li>友達や先輩の立場だったら、どのように答えるか考える。</li> </ul>	<p>アクティブラーニング素材としての活用例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事前課題や事後課題として映像のQRコードを授業前に提示</li> </ul>
<p>シーン3</p> <p>映像の解説</p> <p>実習生の気持ち、実習生への指導1。</p> <p>実習指導者に事前情報が必要だと思った気づきを報告し、実習生が散らかった部屋に対する疑問を伝えると、逆に指導者からなぜそのような状況なのかを問いかける。</p> <p>映像作成時のコンセプト</p> <p>シーン1とシーン2で実習生が感じたことに対する答えの例として事前情報を挙げている。</p> <p>利用者の状況について、指導者から「なぜか？」と問いかけられ、理由があることに気づく。</p>	

<p>《シーン3を用いた授業の具体的な展開例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 部屋の状況について、シーン1を再度視聴しながら、理由を検討してみる。</li> <li>• 自分の考えに偏ってしまう可能性が高いことに気付く。</li> </ul>	<p>アクティブラーニング素材としての活用例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 事前課題や事後課題として映像のQRコードを授業前に提示</li> </ul>
<p>シーン④</p> <p>映像の解説</p> <p>実習生の気持ち、実習生への指導2。</p> <p>物忘れを気にしている松井さんに対して、施設の職員が利用者のために工夫していることを実習生に伝えている。</p> <p>映像作成時のコンセプト</p> <p>ただ散らかっていると実習生が感じた居室の中で、施設の職員は何を配慮しているのか考える。</p>	<div data-bbox="1086 407 1362 654" style="text-align: center;">  </div> <p>映像番号 Y④</p> <p>実習生の気持ち (実習生への指導2)</p>
<p>《シーン4を用いた授業の具体的な展開例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• お菓子の空き袋や新聞は、なぜそのままになっているのか検討する。</li> </ul> <p>例として、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• お菓子のゴミは、買い物を頼むときに活用するため、敢えて保管している。</li> <li>• 新聞や折り込み広告は、読みたい時に読むために置きっぱなしにしておく。</li> <li>• ゴミを確認して、思い出せる能力があるため、食べ過ぎないようにゴミは、毎週〇曜日に捨てる決めてる。</li> </ul> <p>等。</p>	<p>アクティブラーニング素材としての活用例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 事前課題や事後課題として映像のQRコードを授業前に提示</li> </ul>
<p>Y①～④を用いた展開例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 当該科目での別の用い方</li> </ul> <p>利用者それぞれが生活を営んでいて、その生活の中に入れていただくことに気づく。</p> <p>シーンの中の問いかけや指導者の指導の順序を変更して視聴することにより、自分の物の見方についての自己覚知をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 違う科目での用い方</li> </ul> <p>「介護の基本」尊厳を支える介護、自立を支える介護、介護実践における倫理</p>	

## 8. おわりに

介護人材確保が喫緊の課題である反面、介護福祉士養成校の学生募集は決して芳しくない状況が数年継続している。また基礎学力の低下、生活経験の乏しさ、メンタル不調の多さに加え、外国人留学生が占める割合も増加し、介護福祉士養成教員は多忙さと、多様さの中で、教員としての遣り甲斐よりも、疲弊感や徒労感を覚えることがいつの間にか増してきていた。その上、2020年度、2021年度の新型コロナウイルス感染症の影響から、介護福祉士養成教育において更に閉塞性が高まることとなった。

特に介護実習450時間を確保するために、感染が拡大した地域の養成校は、学内実習(演習)により代替実習を組まざるを得なくなった。また感染対策から非接触が原則となったことで、生活支援技術における身体介助についても、従来の教育方法では対応が困難となった。

例えば、介護実習では、実習体験ができないという大きな代償をどう埋めるか、実習における到達目標を養成校ごとで、どう別プログラムで達成するかなど試行錯誤をしてきた。具体的には介護教員達自らが、それぞれの養成校の人的環境と、物的環境をフル活用しアイデアを駆使し【利用者理解】のオリジナル動画の作成や、ペーパーシミュレーション素材を連日、作り出してきた。正しく、この3年間近い時期は<産みの苦しみ>の日々であった。

思い返してみると、ただただ必死の毎日であった筈だが、付け焼刃な動画撮影の上、科目間連携や学年進行まで教育的効果を考慮する余裕がなかったことから、一時的に使用ができて、素人集団のお粗末な映像技術では養成校同士が共有する教材にまで発展させることは困難であった。

そこで、今回の調査研究事業は、動画作成の段階で作業部会における議論を積み重ね

- ・介護実習に向けた方略：感染症の蔓延、発災時、遠隔地を想定
  - ・領域「介護」「こころとからだのしくみ」における科目間連携
- を意識した動画教材を作成することとした。

学生の学びにつながるものとは何か、養成校教員チームでのディスカッションの日々は、試行錯誤や苦しみもあったが、総じて楽しく、慣れない演技に苦戦し、協力する中で、クリエイティブな介護のチーム力を改めて実感する貴重な機会となった。

地域も規模も形態も違うが、学生を思う気持ちは同じであること、事業に参加した介護福祉士養成教員の原点回帰の機会になったこと、養成校の枠を越えた出会い、ディスカッションを行えたことは副産物的な喜びとなった。心から介護が好きな教員が全国に存在するという、また、良い介護人材を養成したいという気持ちは皆、同じであること、このような熱心な教員の存在は、介護の未来を明るく照らすこと、教員の意欲や情熱が学生の質を左右することを再認識した。

2021年 こくみん共済coop<全労済>社会福祉活動等助成事業

介護福祉士養成課程におけるICT化推進

(副題：科学的情報介護 LIFE の理解と、科目間連携における汎用性の高い映像教材の作成)

報告書

発行：令和5（2023）年4月

公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会

東京都文京区本郷3-3-10 藤和シティコープ御茶ノ水2階

TEL：03-3830-0471 / FAX：03-3830-0472

web: <<https://kaiyokyo.net/>>